

# 平成24・25年度小学校学習指導要領実施状況調査 結果のポイント

## I. 調査の概要

### 1. 調査の趣旨

小学校の学習指導要領の検証のため、指導要領の改善事項を中心に、各教科等の目標や内容に照らした児童の学習の実現状況について調査研究を行い、次期指導要領改訂の検討のためのデータ等を得る。

### 2. 調査の内容

各教科で下記の①から③の視点に基づくペーパーテスト調査を実施。あわせて、児童、教師、学校長を対象とした質問紙調査を実施。

- ① 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項、各教科等の主な改善事項  
(例) 思考力・判断力・表現力等の育成、言語活動の充実 等
- ② 今回の改訂で新設、学年及び学校種を越えて移行した事項
- ③ 従来より課題と指摘される事項や、経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

### 3. 調査対象学年、教科等及び調査実施日

【平成24年度】 平成25年2月18日(月)から平成25年3月8日(金)まで

- ・第2学年 生活(学校質問紙調査)
- ・第4学年 国語, 社会, 算数, 理科 ・第5学年 社会, 算数, 理科
- ・第6学年 国語, 社会, 算数, 理科, 音楽, 図画工作, 家庭  
※国語, 社会, 算数, 理科, 音楽, 図画工作, 家庭はペーパーテスト調査及び質問紙調査を実施
- ・第4, 5, 6学年 総合的な学習の時間, 特別活動(児童・教師質問紙調査)  
※国語, 社会, 算数, 理科, 音楽, 図画工作, 家庭の調査実施校において実施

【平成25年度】 平成25年12月2日(月)から平成26年1月31日(金)まで

- ・第6学年 体育(運動領域, 保健領域)及び質問紙調査  
※体育(運動領域)については実技調査も実施

#### 4. 調査実施校及び調査実施児童数

##### 【平成24年度】

911校（全学校の約4.2%），延べ111,797人

##### 【平成25年度】

112校（全学校の約0.5%），延べ6,447人

※1教科（体育については各領域）1冊子当たり，3,000人程度の調査結果を得ることができるよう，国立教育政策研究所において調査対象校を無作為抽出。

#### 5. 通過率の評価

学習の実現状況について，以下のとおり，評価を行った。

- ・通過率80%以上 …「相当数の児童ができている」
- ・通過率60%未満 …「課題があると考えられる」

※ただし，出題形式，難易度等によって前後5%の範囲内で調整

## Ⅱ. 調査結果のポイント

### 【ペーパーテスト調査】

#### 国 語

- 目的や意図に応じて相手の話の内容を聞き取ることや、問われたことに対して情報を正確に取り出すこと等については、相当数の児童ができています。
- 目的に応じて文章を要約するなど課題解決に向けて主体的に文章を読むことや、ポスター・リーフレットなど文章の種類や特徴に応じて効果的に文章を書くこと等については、課題があると考えられる。

#### 社 会

- 示された学習問題の解決を見通して調べる事柄や資料を選ぶことや、グラフや年表から情報を読み取ること等については、相当数の児童ができています。
- 資料から読み取った情報を比較・関連付け・総合したりして社会的事象の働きや役割などを考え表現することや、地図から読み取った情報を適切に表現すること等については、課題があると考えられる。

#### 算 数

- 等しい比について考え説明することや、「帯分数を含む分数の乗法及び除法」、「直線の平行や垂直の関係」、「異分母の分数の加法及び減法」、「円の面積の求め方」、「起こり得る場合」等については、相当数の児童ができています。
- 目的に応じてグラフを用いて考え説明することや、分数の除法の意味や割合に関する問題、「□や△などを用いた式の理解」、「四則計算の結果の見積り」、「単位量当たりの大きさ」等については、課題があると考えられる。

#### 理 科

- 実験結果のグラフから要因を考え予想することや、予想に対する検証方法を計画し観察・実験を実施すること、身近な現象に目を向け学んだことを生活に適用すること、観察・実験の記録の技能等については、相当数の児童ができています。
- 比較対象の設定や条件の制御をすることや、科学的な言葉や概念を的確に記述すること、事象の変化を要因と結び付けて的確に表現すること、一部の観察・実験器具の操作の技能等については、課題があると考えられる。

## 音 楽

- 曲想の変化と音楽の仕組みを結び付けて聴くことや、世界各国の音楽の中から我が国の音楽を聴き分けること等については、相当数の児童ができています。
- 楽曲の特徴を言葉で適切に表すことや、音楽表現に対する思いや意図を言葉で適切に表すこと、我が国の音楽の特徴をとらえて聴くこと等については、課題があると考えられる。

## 図画工作

- 形の特徴を考えながら表し方を構想して絵に表すことや、自分たちの作品について表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること等については、相当数の児童ができています。
- 表したいことを見つけて絵に表すことや、我が国や諸外国、暮らしの中の作品について表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること、複数の造形的な特徴を根拠に作品の印象を説明すること等については、課題があると考えられる。

## 家 庭

- 家庭の仕事と分担に関する知識・理解や、材料や目的に応じたため方の工夫、場面・季節に応じた日常着の着方の工夫、物や金銭の計画的な使い方の工夫等については、相当数の児童ができています。
- 家族の一員として協力することへの関心や、栄養のバランスを考えた1食分の献立の工夫、環境に配慮して物を無駄なく使うための工夫等については、課題があると考えられる。

## 体育(運動領域)

- ボール運動において作戦を選ぶことや、体力を高める運動により得られる効果及び力強い動きを高めるための適切な運動を選ぶことなどについては、相当数の児童ができています。
- 水泳(クロール)において課題に対応した練習を選ぶこと、体ほぐしの運動の目的を理解することなどについては、課題があると考えられる。

## 体育(保健領域)

- 身近な健康課題等の解決に向けて、自分に合った方法を選択することや、周囲の状況を見極め、危険に気付いて的確に判断すること、「体の発育・発達個人差」に関することなどについては、相当数の児童ができています。
- 自分で手当ができない大きなけがへの対処方法を判断することや健康情報を分析すること、日常生活で捉えにくい健康・安全の内容を理解することなどについては、課題があると考えられる。

## 【質問紙調査】

### 生活

- 学校質問紙調査における学習指導要領の内容における興味・関心のもちやすさに関する質問のうち、「学校と生活」、「季節の変化と生活」など5項目については、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合が90%以上である一方、「生活や出来事の交流」については60%程度にとどまっている。
- 幼児教育との連携・接続を考慮したスタートカリキュラムを工夫した授業の実施についての質問について、肯定的な回答（「行っている」、「どちらかといえば行っている」）の割合は40%を下回っている。

### 総合的な学習の時間

- 探究の過程（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）に関する取組状況については、いずれも肯定的な回答が否定的な回答を上回っているが、「まとめ・表現」に関する質問では、否定的な回答の割合が他の項目より相対的に多い。
- 教師質問紙調査における、総合的な学習の時間に関する取組状況についての質問全9項目中8項目でいずれの学年も肯定的な回答（「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」）の割合が否定的な回答（「どちらかといえばそうしていない」、「そうしていない」）の割合よりも多く、そのうち7項目では全学年で80%を上回っている。
- 総合的な学習の時間に関する取組についての質問において肯定的な回答（「している」、「どちらかといえばしている」）をした児童は、否定的な回答（「していない」、「どちらかといえばしていない」）をした児童に比べて、各教科のペーパーテスト調査における「思考力・判断力・表現力等」に関する問題の通過率が高い傾向が見られる。

### 特別活動

- 特別活動の目標に関して、「よりよい人間関係を築く力の育成」に係る児童質問紙調査（「みんなで話し合って、なかよく楽しい学級にしている」）、教師質問紙調査（「児童は、協力してよりよい学級生活や人間関係を築いている」）の両方とも、肯定的な回答が約9割。
- 教師質問紙調査における特別活動に関する取組状況についての質問で、「自治的能力の育成」の状況に関する質問においては約4割から約5割、「道徳との関連を図った」指導に関する質問においては、約3割が否定的な回答（「そうしていない」、「どちらかといえばそうしていない」）となっている。
- 特別活動に関する児童質問紙調査に肯定的な回答（「している」、「どちらかといえばしている」）をしている児童が多い学級ほど、各教科のペーパーテスト調査において平均正答率が高い傾向が見られる。

## 共通

- 各教科の「学習をすれば、ふだんの生活等に役立つ」という質問について、前回調査(H15)と比べ、多くの教科・学年において、児童の肯定的な回答の割合が高くなっている。
- 教師質問紙調査で、学習指導要領改訂の基本方針を意識した授業や、言語活動を重視した授業を「行っている」又は「どちらかといえば行っている」という肯定的な回答の割合がどの学年においても90%以上である。
- 「体験的な学習の充実」、「学校全体の教育課程の検証、改善」、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」については90%以上の学校が「実現できている」と回答している一方、「自主的、自発的な学習の促進」については30%以上の学校が「ほとんど実現できていない」又は「どちらかといえば実現できていない」と回答している。

### Ⅲ. 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点

#### A-1. ペーパーテスト調査結果の概要(国語)

##### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

###### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

###### 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 目的や意図に応じて、相手の話の内容を聞き取る

###### 課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 課題を明確にし、その解決のために必要な情報を判断し、目的に応じて情報検索の手段を活用して必要な情報を集めること
- 課題解決に向けて主体的に文章を読むこと(目的に応じて文章を要約したり、説明的な文章について必要な箇所を見付けて読んだりすることなど)

###### (2) 実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力(「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」)の育成

###### 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 図表を用いて自分の考えが伝わるように文章を書いたり、略述して簡潔に書いたりすること
- 問われたことに対して情報を正確に取り出すこと

###### 課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 聞いた内容を目的に応じて活用しやすいようにメモにまとめること
- ポスターやリーフレットなどの文章の種類や特徴に応じて、効果的に文章を書くこと
- 十進分類法を活用して必要な図書資料を探す場面において、目的に応じ、必要な本や資料を検索すること

##### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

###### 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 時間の経過による言葉の変化や比喻などの表現の工夫に気付くこと【新設:5, 6年】
- 清音のローマ字を読むこと【移行:4年→3年】

###### 課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 図鑑の使い方を解説した冒頭のページの特徴を生かして、必要な情報を得ること【新設:5, 6年】
- 促音を含んだ語をローマ字で書くこと【移行:4年→3年】

##### 3. 従来より課題と指摘される事項等

###### 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 自分の意見と比べながら聞き、自分の考えをまとめること【従来より課題】

###### 課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 話合いの流れ全体を踏まえ、話し手の意図を明確に押さえた上で質問すること【従来より課題】
- 日常の一場面を切り取って描くなど、展開の起伏の少ない物語等において、登場人物相互の関係を物語全体の展開からとらえて読むこと【従来より課題】

## A-2. 指導上の改善点(国語)

### 1. 児童自身が目的や必要感をはっきりと意識して取り組める言語活動の設定

- ・ 児童自身の目的意識や必要感を十分に喚起するため、児童の課題意識をかき立てる言語活動を単元に位置付けて指導を行うなど、学習指導の工夫が重要。

### 2. 指導のねらいにふさわしく、かつ、児童自身にとっての課題解決の過程となるような、単元を貫く言語活動を位置付けた学習過程の工夫

- ・ 児童が言語の知識や技能を使いこなせるようするためには、単元全体を通した一貫した課題となる言語活動(単元を貫く言語活動)を位置付けることにより、課題解決の過程を明確にした指導計画を工夫することが重要。
- ・ その際、児童が、当該単元で付けるべき国語の能力を確実に身に付けられるよう、指導事項等を明確に把握し、ねらいにふさわしい言語活動を吟味して位置付けるとともに、児童が自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に取り組むことができるよう留意することが重要。

### 3. 場面や状況、必要な条件などを踏まえて話したり聞いたり、書いたり読んだりする学習指導の工夫

- ・ 目的に応じて必要な箇所を的確に判断して読むこと等ができるよう、どのようなことを念頭において言語活動を行うべきかといった、学習の見通しを立てたり、課題解決に向けて学んだことは何かといったことを、学習指導のねらいに即して振り返ったりすることができるような活動を位置付けることが重要。
- ・ 学習活動の中に話し合いなどの交流を位置付ける場合も、何のために、誰と、どのように交流するのかといったことを明確に意識できるようにすることが重要。

### 4. 読書に親しむ態度を育成する指導の充実

- ・ 多様な読書経験を通し、様々なものの見方や考え方に触れ、読む能力やその基盤となる思考力や判断力を育むことが重要。そのため、指導のねらいを明確化し、読書活動を国語科の授業に明確に位置付けるとともに、「大好き」「心に残る」といった思いを膨らませ読書に親しめるようにすることが重要。
- ・ その際、教科書教材と関連する本を選んで読む並行読書を効果的に取り入れることが重要。また、国語科における読書活動は、あくまでも国語科のねらいを実現するための手立てとして取り入れるものであることを踏まえ、特定の読書活動を行うことが目的化することのないよう留意することが必要。

### 5. 本の題名や見出し、目次や索引などを用いて、主体的に情報を活用するための系統的な指導の充実

- ・ 十進分類法を活用したり、図鑑の読み方を解説したページを使いこなしたりするなど、情報を主体的に活用する能力を育むことが重要であり、児童の発達の段階を踏まえ、低学年から継続的・系統的に指導することが重要。
- ・ その際、単に検索方法の知識を取り出して指導するのではなく、課題解決の過程の中で、情報検索が必要な場面を設定して指導するよう留意することが必要。

### 6. 六年間の系統性を見通し、各教科等との関連を図った指導計画の作成

- ・ 小学校の六年間を見通し、各学年の発達の段階を踏まえながら、年間を見通して指導を行うことが重要。また、国語科で身に付けた国語の能力を、各教科等の学習において活用したり、各教科等の学習場面と効果的に関連させたりすることも重要。



## B-1. ペーパーテスト調査結果の概要(社会)

### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 示された学習問題の解決を見通して、調べる事柄や資料を選ぶこと
- 文化遺産(有形・無形)の保存や継承の意義を考え表現すること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 資料から読み取った情報を、比較したり、相互に関連付けたり、総合したりして、社会的事象の働きや役割などを考え表現すること

#### (2) よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎の育成

- よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎に関連する「社会的事象への関心」については、「我が国と外国との関係」への関心は他の調査事項(注)と比べて高いが、「我が国の政治」、「我が国の水産業」への関心は他の調査事項(注)と比べて低い。

(注)他の調査事項…「昔の人々の暮らし」、「地域の行事や活動への参加」、「我が国の農業」、「我が国の工業」、「我が国の伝統や文化」

### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 「災害及び事故の防止に関わる地域の協力活動」(地域の協力活動と自分たちの生活や行動との関わり)【新設:3,4年】
- 「主な地図記号」【新設:3,4年】
- 「事故の防止や廃棄物処理のための法やきまり」【新設:3,4年】
- 「世界の主な大陸と海洋」【新設:5年】

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 「47都道府県の名称と位置」【新設:3,4年】  
※改善傾向にある(通過率60%以上の都道府県が増加(12(H18)→20(H24)))
- 「主な国の名称と位置」【新設:5年】
- 「産業における価格や費用」【新設:5年】
- 「国民の司法参加」(裁判員制度)【新設:6年】

### 3. 従来より課題と指摘される事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- グラフや年表から情報を読み取ること  
【従来より課題】
- 「日本国憲法の基本的な考え方」【経年比較】

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 「明治期以降の歴史上の人物と業績」の一部(同時期に活躍した人物の理解)【従来より課題】  
※全体としては改善傾向にある
- 地図から読み取った情報を適切に表現すること【従来より課題】

## B-2. 指導上の改善点(社会)

### 1. 情報を基にして社会的事象の意味を考え表現できるようにする指導の充実

- 情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴、働き、役割、因果関係、条件などを考え表現できるようにする指導が重要。
- 調べたこと、分かったことや考えたことを根拠として示しながら説明できるように引き続き指導することが必要。また、学習した用語・語句を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明できるようにする指導が重要。

### 2. 基礎的な知識や技能を確実に身に付けるようにする指導の充実

- 社会的事象に関する基礎的な知識については、授業の中で繰り返し指導したり、用語・語句の意味に留意して指導したりして、確実に身に付けるようにする指導が重要。
- 資料から情報を読み取る技能については、資料に応じた読み取り方や複数の資料を関連付けた読み取り方を指導して、社会的事象に関する情報を的確に読み取ることができるようにしていくことが重要。
- 情報を効果的に活用する技能については、必要な資料を選んだり吟味したりできるようにする指導が重要。また、情報を整理し、目的を明確にして発信することについても指導することが必要。

### 3. 問題解決の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする指導の充実

- 社会的事象から学習問題を見だし、その解決の見通しをもつように引き続き指導することが必要。
- 学習したことを振り返り、様々な情報を総合して、社会的事象の意味(目的、働きなど)を考え、表現できるようにする指導が重要。

### 4. よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる指導の充実

- 社会の一員として、社会的事象の意味を考えるように引き続き指導することが必要。
- 社会的事象への関心を高め、主体的、協同的に学ぼうとする態度を養う指導が重要。
- 社会的な見方や考え方を養い、社会生活についての理解を図る指導が重要。こうしたことを通じて、人々が相互に関わりをもちながら生活を営んでいることを理解するとともに、自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育てるようにしていくことが重要。

## C-1. ペーパーテスト調査結果の概要(算数)

### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 等しい比について考え説明すること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 目的に応じてグラフを用いて考え説明すること

#### (2) スパイラルによる教育課程の編成(知識・技能の確実な定着や数学的な思考力・表現力の育成等)

- 「反復(スパイラル)による学習指導」が行われているもののうち、以下のものについては、学年が上がると通過率が高い傾向が見られる。

(学年が上がると通過率が高い傾向が見られるものの例)

- 「分数と整数の乗法及び除法の計算」, 「小数の乗法及び除法に関する計算の仕方の説明」, 「作図の方法」, 「数量の関係を式に表すこと」

### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 「帯分数を含む分数の乗法及び除法」  
【新設: 6年】
- 「同分母の分数の加法」, 「直線の平行や垂直の関係」【移行: 5年→4年】
- 「異分母の分数の加法及び減法」  
【移行: 6年→5年】
- 「円の面積の求め方」【移行: 5年→6年】
- 「起こり得る場合」【移行: 中2年→6年】

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 「□や△などを用いた式の理解」【新設: 4年】
- 「四則計算の結果の見積り」(場面に応じて適切な式を考えること)【移行: 5, 6年→4年】
- 「大きさの等しい分数」(分数の大きさを図を用いて表すこと)【移行: 5年→4年】
- 「体積の単位」, 「単位量当たりの大きさ」  
【移行: 6年→5年】

### 3. 従来より課題と指摘される事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 点対称の作図の問題【経年比較】

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 分数の除法の意味や割合に関する問題  
【従来より課題】
- 倍という言葉の問題文に含む場合における除法の立式【従来より課題】
- 問題場面から式を立てる問題【経年比較】  
※但し、前回(H15)を有意に上回っている

## C-2. 指導上の改善点(算数)

### 1. 指導内容のより確かな理解のための算数的活動の充実

- 算数の知識をもとに発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことを表現したり説明したりする活動など、算数的活動を通じた指導の一層の充実が求められる。
- 算数科における言語活動については、活動させる前に言葉で表現させたり、活動したことを言葉で振り返らせたり、それらを相互に吟味させたりすることが重要。また、正しく用語を使えるようにするとともに、用語の意味の理解の指導にも力を入れることが必要。

### 2. 学習内容を振り返り、理解を深める活動の充実

- 新たな学習した内容とこれまで学習した内容に関連づけ、問題解決の際に活用できるよう、学習内容を振り返る活動を取り入れることが必要。
- その際には、学習内容をただ思い出し確認するだけでなく、理解を深める活動を充実させることが重要であり、毎時間の学んだことと既習の学習とをつなげてその意味を考え、知識を整理しようとする態度を養うことが必要。

### 3. 多様な表現ができる児童の育成

- 式で表されたことを図にしたり、図に表されたことを式にしたりするとともに、その意味を読み取るなどして、言葉や数、式、図、表などの相互の関連を理解することができるようにする指導が重要。

### 4. 児童が問題解決の主体者となるために素朴な疑問や好奇心からの問題設定

- 思考力を重視した指導が浸透しつつあることがうかがわれるが、一方で、算数の授業の目的が問題を解くことに偏りがちであるのも否定できない。低学年の頃から、児童の疑問や好奇心から問題設定を行うなどの指導を行うことが、主体的に問題解決を行う児童を育てることにつながると考えられる。

### 5. 問題解決的な学習の充実

- 問題解決の過程では、試行錯誤をしたり、資料を収集整理したり、実際に具体物を操作したり、実験したり、観察したりするなどの算数的活動が行われる。このような問題解決の過程を児童が主体的に行うことができるように、指導を充実させることが重要。

### 6. コンピュータの適切な活用の充実

- コンピュータなどを用いて、知識・技能の活用を図ったり、児童の能力を創造的に発揮させたりすることが重要。
- その際には、コンピュータの持つ機能を効果的に活用することによって、数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表現する力を高めたりするよう、指導を工夫することが重要。

## D-1. ペーパーテスト調査結果の概要(理科)

### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 実験結果のグラフから要因を、考え予想すること
- 予想に対する検証方法を計画し、観察・実験を実施すること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 比較対照の設定や条件の制御をすること
- 結果を分析し、予想や仮説に照らし合わせた考察をすること
- 科学的な言葉や概念を的確に記述することや、事象の変化を要因と結び付けて的確に表現すること

#### (2) 学習内容と実際の自然や生活との関係を捉えること

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 身近な現象に目を向け学んだことを生活に適用すること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 観察の視点を明確に持ち、自然事象に関して実感を伴って理解すること

#### (3) エネルギーの利用や環境保全に着目し考察すること

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- エネルギーの変換に関する内容等を理解すること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- エネルギー効率に着目した考察や食物連鎖を理解すること

#### (4) 観察・実験の技能の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 観察・実験の記録の技能

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 一部の観察・実験器具の操作の技能

### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 「人の体のつくりと運動」【新設:4年】
- 「天気の様子」【移行:5年→4年】

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 「流水の働き」(川原の石の形状の成り立ち)【一部追加:5年】
- 「てこの規則性」(てこのつり合いを一般化し式を導く)【移行:5年→6年】

### 3. 従来より課題と指摘される事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 「月と太陽」【経年比較】

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 「電流の働き」(条件に着目した実験を計画すること等)【経年比較】
- 「土地のつくりと変化」(地震や火山に関する内容等)【経年比較】

## D-2. 指導上の改善点(理科)

### 1. 問題解決の能力(思考力・判断力・表現力)の育成

#### (1) 問題を見いだし、予想や仮説を立て、実験を計画することの重視

- 実験を計画する際には、予想や仮説を検証することや、比較対照実験の必要性に気付かせていくことが重要。
- 実験を計画する際には、自分の考えの根拠を明確にしなが、具体的な観察道具や実験器具を想定したり、モデル図に表現して考えたりすることが必要。
- 観察・実験において、計画通りに行えなかったり、予想通りの結果が得られなかったりする際には、予想や仮説を見直したり、検証計画を改善し、再度、観察・実験を行ったりすることが必要。

#### (2) 観察・実験の結果を整理し、問題や予想に照らし合わせて考察することの重視

- 観察・実験の結果について考察し結論を導く際には、観察・実験の結果を表やグラフに整理して分析的に読み取らせる機会を設けることが重要。
- 観察・実験の結果の考察により結論を導く際には、結果と結論の区別を明確にすることが必要。そのためには、問題や予想に立ち戻り、それに応じた考察を一人一人が行うようにすることが重要。

#### (3) 科学的な言葉や概念を使用することの重視

- 科学的な見方や考え方を養うために、自ら予想したり、考察したりしたことを表現する際には、科学的な言葉や概念を適切に使用して説明できるようにすることが重要。
- 科学的な言葉や概念を使用できるようにするためには、表、グラフ、図、絵、ICT機器の活用等により、思考やイメージを可視化し、児童に事物・現象に関わる科学的な言葉や概念を捉えさせることが必要。

### 2. 実際の自然や生活との関係を捉えることの重視

- 実際の自然との関係を捉えさせる際には、自然の事物・現象の存在や変化に着眼して、学習した知識を活用する学習を展開することが必要。
- 実際の生活との関係に気付かせ、その仕組みを捉えさせる際には、生活への適用の場面を意図的に設定することが必要。

### 3. エネルギーの利用や環境保全に着目し考察することの重視

- エネルギーの有効利用に着目できるようにするためには、光電池や発電機、発光ダイオード等の利点や、どのように利用されているのかを調べることが重要。
- 「生物と環境」(第6学年)では、循環や相互依存等について着目して推論するなど、グローバルな視点で環境保全を捉えられるような指導の工夫が必要。

### 4. 観察・実験の技能の育成

- 観察・実験を実施する際には、できる限り個人やペアで器具や道具の操作を行えるようにすると同時に、グループで行うときには、役割を固定せずに交代するなど、児童一人一人が観察・実験の技能を習得できるようにすることが必要。
- 信頼性の高いデータを得るために必要な実験技能を確実に習得できるように指導の工夫・改善を図ることが重要。また、観察や実験を安全に行うために、器具の正しい操作方法を板書やポスター等で徹底して指導すること等が重要。

## E-1. ペーパーテスト調査結果の概要(音楽)

### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 鑑賞において、曲想の変化と音楽の仕組み(反復・変化)を結び付けて聴くこと

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 鑑賞において、楽曲の特徴を言葉で適切に表すこと
- 歌唱及び器楽において、音楽表現に対する思いや意図を言葉で適切に表すこと

#### (2) 我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 世界各国の音楽の中から我が国の音楽を聴き分けること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 我が国の音楽の特徴をとらえて聴くこと

### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 〔共通事項〕ア「音楽を形づくっている要素を聴き取ることとその働きを感じ取ること」【新設】のうち、木管楽器・弦楽器の音色を聴き取ること
- 「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること」【新設】のうち、合奏の改善すべき点に気付くこと

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 〔共通事項〕ア「音楽を形づくっている要素を聴き取ることとその働きを感じ取ること」【新設】のうち、二つの旋律の重なり方や、長調か短調かを聴き取ること、旋律の特徴をとらえること
- 〔共通事項〕イ「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を理解すること」【新設】のうち、音符や記号を理解すること、聴き取ったリズムと楽譜を結び付けること

### 3. 従来より課題と指摘される事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

※ 特記事項なし

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 楽譜を見て階名を正しく読むこと  
【従来より課題】

## E-2. 指導上の改善点(音楽)

### 1. 思考・判断し、表現する過程を重視した指導の一層の充実

- 音楽の特徴を感じ取りながら、思いや意図をもって音楽表現をしたり、楽曲の特徴や演奏のよさをとらえて味わって聴いたりする、主体的・創造的な学習をより一層充実することが重要。
- その際、児童の協同的な学習を促し、音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実することが重要。

### 2. 音楽的な特徴をとらえる指導の改善・充実

- 音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、音楽活動を通して用語や記号を理解して楽譜を読んだりするなどして、聴覚と視覚を関わらせて音楽的な特徴をとらえる指導を充実することが重要。
- 音符、休符、記号や用語については、表現及び鑑賞の活動の中で、実際の音と関連させてその意味や働きを理解したり、音符、休符、記号や用語を活用する場面を設けたりするなどして、児童が実感をもって理解できるように、指導方法を工夫することが重要。
- 無理なく読譜に慣れることができるように、指導方法を工夫することが重要。

### 3. 音楽づくり・鑑賞の指導の改善・充実

- 「音楽の授業で、音楽をつくるのが好き」と回答をしている児童は約5割である。また、音楽づくりの指導内容について「児童が身に付けやすい」と回答した教師の指導を受けている児童の割合は約2割である。  
このようなことも踏まえ、音楽づくりについては、児童がつくる過程を楽しみながら実際にいろいろな音楽表現を試し、互いの表現のよさを交流するなどして、音楽をつくる喜びを味わうことができるように、指導方法を工夫することが重要。
- 鑑賞については、想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて言葉で適切に表す指導を一層充実し、楽曲全体を味わって聴くことができるように、指導方法を工夫することが重要。

### 4. 我が国の音楽の指導の改善・充実

- 我が国や郷土の音楽に対して、児童の興味・関心を高めるためには、和楽器に親しむなど体験活動を充実することが重要。
- 我が国の音楽の特徴を感じ取りやすい音楽を教材として扱い、必要に応じて、諸外国の音楽と比較するなどして、我が国の音楽の特徴をとらえて聴くことができるようにし、音楽の多様性や音楽文化の理解につながる素地を養うようにすることが重要。
- 唱歌やわらべうた、民謡などの日本のうたについては、児童がそのよさを感じ取って表現できるよう、歌詞の内容や音楽を形づくっている要素を手掛かりに、楽曲に対する理解を深めるとともに、曲にふさわしい自然な歌い方で歌うことができるように、指導方法を工夫することが重要。



## F-1. ペーパーテスト調査結果の概要(図画工作)

### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 想像したことを絵に表す活動を通して、形の特徴を考えながら表し方を構想して表すこと
- 自分たちの作品を鑑賞する活動を通して、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 想像したことを絵に表す活動を通して、表したいことを見付けて表すこと
- 我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品を鑑賞する活動を通して、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること

#### (2) 言語活動を通して作品のよさや美しさを感じ取る鑑賞の能力の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 作品から得た自分の印象について、形や色の造形的な特徴を一つとらえ、それを根拠に説明すること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 作品から得た自分の印象や情景、全体的な感じなどを、形や色、動きや奥行きなどの複数の造形的な特徴を根拠に説明すること

### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 作品を鑑賞する問題において、形や色の造形的な特徴を一つとらえ、それを基に自分のイメージをもつこと【共通事項】**【新設】**

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 作品を鑑賞する問題において、形や色、動きや奥行きなどの複数の造形的な特徴をとらえ、それらを基に自分のイメージをもつこと【共通事項】**【新設】**

### 3. 従来より課題と指摘される事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

※ 特記事項なし

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 我が国の作品を鑑賞し、全体的な感じを、複数の造形的な特徴を根拠に説明すること  
**【従来より課題】**  
(1)(2)の「課題があると考えられる」と同旨)

## F-2. 指導上の改善点(図画工作)

### 1. 発想や構想の能力を育成する指導の充実

- 「図画工作の授業がどの程度できますか」という質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、音楽等質問紙調査(平成16年度)と比べて10%以上高い。このようなことから、表したいことを自分で見付ける学習を充実するなど、児童一人一人の創造性を一層高めることが重要。
- 表したいことを見付けることと、表し方を考えたり計画を立てたりすることの違いや関連を理解し、表したいことを思い付くことができるよう、指導することが重要。
- 材料を基に造形遊びをする活動と、表したいことを絵や立体、工作に表す活動をバランスよく指導することが重要。また、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力が共に高まるよう、指導することが重要。

### 2. 鑑賞の対象や鑑賞の方法を工夫した指導の充実

- 我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などの鑑賞の活動について、より効果的な言語活動を取り入れるなど、一層充実することが必要。
- 我が国の美術作品のうち、日本の伝統的な文化に関しては、材料や表現の方法と関連付けた表現活動を設定するなど、児童の主體的な活動を取り入れると共に、興味をもつことができるよう、鑑賞の方法を工夫することが重要。
- 暮らしの中の作品の鑑賞は、暮らしの中のものや造形として広くとらえ、児童が自分の暮らしと関連付け、生活を豊かにすることに関心をもつことができるよう、鑑賞の方法を工夫することが重要。

### 3. 造形的な特徴をとらえイメージをもつことに関する指導の充実

- 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、自分のイメージをもつという指導事項[共通事項]についての一層の理解が重要。
- 表現の活動では思い付いたことを進んで取り入れられるようにしたり、鑑賞の活動では根拠を明確にして語り合ったりするなど、造形的な特徴をとらえイメージをもつことを意識できるような学習活動を充実することが重要。

### 4. 共に学び高め合う場としての指導の充実

- 児童が自分や友達の表し方や感じ方のよさや違いに気付き、活動を通して共感したり、多様性を感じ取ったりすることができるよう、指導を充実することが重要。
- 造形遊びをする活動においては、児童の気付きや発想が、友達とつながり、活動を展開できるよう、指導を工夫することが重要。
- 表したいことを絵や立体、工作に表す活動では、鑑賞の学習と関連させ、同じ材料や用具を扱う場面において、友達の表したいことや表し方の違いなどに気付き、お互いの表現のよさを感じ取ることで、できるような指導の工夫をすることが重要。

## G-1. ペーパーテスト調査結果の概要(家庭)

### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

#### (1) 思考力・判断力・表現力等日常生活で活用する能力の育成

##### 相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

- 家族との触れ合いや団らんを楽しむための工夫や、近隣の人々とのかかわりを考えた家庭生活の工夫
- 材料や目的に応じた野菜のいため方の工夫
- 場面・季節に応じた日常着の着方の工夫
- 物や金銭の計画的な使い方や目的に合った物の選び方の工夫

##### 課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 栄養のバランスを考えた1食分の献立の工夫
- 製作する物に必要な布の大きさの工夫
- 環境に配慮して物(食品)を無駄なく使うための工夫や、使い終わった物を再利用するための工夫

#### (2) 日常生活で活用する能力を高める上での基礎・基本の習得

##### 相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

- 家庭の仕事と分担に関する知識・理解
- 食事の役割(マナー)に関する知識・理解
- 衣服の働きや手入れ、整理・整頓や掃除に関する知識・理解
- 購入する物の選択に関する知識・理解

##### 課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 家族の一員として協力することへの関心
- 食品の栄養的な特徴、材料の洗い方、我が国の伝統的な日常食である米飯とみそ汁の調理に関する知識・理解
- 縫いしろやゆとりの必要性、ミシンなど製作に必要な一部の用具の使い方に関する知識・理解

### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

##### 相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

- 環境に配慮して物(文房具)を長く大切に使うための工夫【新設: 5, 6年】

##### 課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 体に必要な栄養素の種類と働きに関する知識・理解【移行: 中1, 2, 3年→5, 6年】

### 3. 従来より課題と指摘される事項等

##### 相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

※ 特記事項なし

##### 課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 包丁の安全な取扱い方に関する知識・理解【従来より課題】

## G-2. 指導上の改善点(家庭)

### 1. 家族の一員として協力することへの関心と生活時間の使い方の工夫

- 家庭の仕事と分担については、家族を大切にすることを高めるため、指導の充実が引き続き必要。
- 生活時間を工夫し家族に協力することについては、家族が協力し合うことで家庭生活が円滑に営まれることに気付かせるとともに、家族に協力することへの関心を高める指導を工夫することが重要。家庭との連携を図る指導を工夫することも必要。

### 2. 栄養・調理に関する基礎的・基本的な知識・理解と1食分の献立の工夫

- 体に必要な栄養素の種類と働きについては、五大栄養素の体内での主な働きに関する知識・理解を確実にするための指導を工夫することが重要。
- 食品の栄養的な特徴については、特に、体内で「主にエネルギーのもとになる」、「主に体をつくるもとになる」グループの食品の区別を理由と共に理解させる指導を工夫することが重要。
- 調理の基礎については、身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を明確にし、適切な食品を選択して実習題材を設定することが重要。また、問題解決的な学習を取り入れ、なぜそのように調理するのかを実感を伴って理解できるよう、指導を工夫することが重要。
- 1食分の献立については、献立の栄養のバランスを確認する方法を理解させ、課題のある献立をよりよい献立に修正できるよう、指導を工夫することが重要。

### 3. 製作に関する基礎的・基本的な知識・理解と快適な衣服の着方や住まい方の工夫

- 生活に役立つ物の製作については、縫いしろやゆとりの必要性を理解させることにより、製作する物のでき上がりをイメージして布の大きさを考えられるよう、指導を工夫することが重要。また、ミシンの使い方の手順やまち針を使う必要性を考えさせたり、繰り返し体験させたりすることが重要。
- 快適な衣服の着方の工夫については、着方と住まい方を関連させた指導の充実が引き続き必要。
- 快適な住まい方の工夫については、日光の暖かさなど自然の力を生かす方法を考えさせる指導を工夫することが必要。

### 4. 購入する物の情報を収集・整理する技能と環境に配慮した生活の工夫

- 購入する物の選択については、表示やマークなどの情報を収集・整理する活動を充実させることが重要。
- 環境に配慮した生活の工夫については、調理や製作など、衣食住の内容との関連を図り、物の無駄のない使い方や使い終わった物の再利用について具体的に実践し、発表し合うなどの指導を工夫することが重要。

## H-1. ペーパーテスト調査及び実技調査結果の概要(体育(運動領域))

### ①ペーパーテスト調査

#### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

##### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

|  |  |
|--|--|
| 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)   | 課題があると考えられる (おおむね60%未満)  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>ボール運動において作戦を選ぶこと</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>水泳(クロール)において課題に対応した練習を選ぶこと</li></ul> |

##### (2) 体づくり運動の一層の充実

|   |   |
|---|---|
| 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)  | 課題があると考えられる (おおむね60%未満)   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>体力を高める運動により得られる効果及び力強い動きを高めるための適切な運動を選ぶこと</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>体ほぐしの運動の目的を理解すること</li></ul> |

##### (3) 生涯にわたって運動に親しむ態度の育成

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)  | 課題があると考えられる (おおむね60%未満) |
| <ul style="list-style-type: none"><li>友達の目当てを意識し、アドバイスをする態度に関すること</li><li>審判としての役割に関する態度に関すること</li><li>安全に気を付けてゲームをしようとする態度に関すること</li><li>友達と助け合って練習や交流をしようとする態度に関すること</li><li>安全に気を配って活動しようとする態度に関すること</li></ul> | ※ 特記事項なし                |

#### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)  | 課題があると考えられる (おおむね60%未満) |
| <ul style="list-style-type: none"><li>ネット型のゲームにおいて有効な攻撃のコースを選ぶこと</li><li>ゴール型のゲームにおいてボールを保持してからの動きを選ぶこと</li></ul> | ※ 特記事項なし                |

### ②実技調査

|   |   |
|---|---|
| 相当数の児童ができている (おおむね80%以上)  | 課題があると考えられる (おおむね60%未満)   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>ハードル走において「あらかじめ決めた足でハードルを走り越えること」及び「2回のインターバルを3～5歩のリズムで走ること」に関すること</li><li>ボール運動(ゴール型)の攻撃においてボールを操作すること</li><li>ボール運動(ネット型)に関すること</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>ハードル上で上体を前傾させること</li><li>ボール運動(ゴール型)の守備における動きに関すること</li></ul> |

## H-2. 指導上の改善点(体育(運動領域))

### 1. 個に応じた指導の一層の充実

- 各領域で扱う運動においては、指導のねらいを踏まえつつも、既存のルールや行い方にとらわれることなく、児童の実態に応じてルール等を工夫できるようにするなど、学習を柔軟に展開することが求められる。
- 引き続きペアやグループ等での活動を取り入れ、児童一人一人が集団への帰属意識や連帯感等をもてるようにすることが大切である。指導に当たっては、仲間どうしが認め合ったり励まし合ったりする活動を重視することにより、更に協力・公正な態度を養うことができるようにすることが大切である。
- 技能の習得に向けて練習等に取り組む際には、自分に合った課題を選んだり、課題を解決する仕方を工夫したりする姿勢や、仲間と協力して準備や片付けを行ったり、安全に留意して活動したりする姿勢を評価するなどして、さまざまな「できる」を認め、技能の習得だけが学習ではないことを児童一人一人が理解できるようにすることが大切である。

### 2. 指導内容としての運動に関する「知識」の明示

- 児童にとって、「できる」と「せいっぱい取り組む」ことは、「わかる」と相互に関連しており、技能として表出するために必要な「前提となる知識」をあらかじめ整理しておき、指導の過程において段階的に動きと結び付けて理解させることが求められる。
- 技能の習得のために、自分が取り組む運動の技術的な課題を知ったうえで、自己の課題の解決のための練習の場を適切に選んだり、仲間と協力して練習等の行い方を工夫したりできるようにすることが大切である。
- その際、言葉による知識の教示だけでなく、掲示物や学習カード等を効果的に活用するなど、児童が知識の習得を図りながら運動に取り組むことができるよう、具体的な手立てを講ずることが重要である。

### 3. 発達の段階に応じて、主体的、協働的な課題解決に取り組む学習の一層の充実

- 低学年においては、多くのことに意欲的で、興味・関心をもちやすい時期であるため、各種の運動を楽しく繰り返し取り組みながら、体の基本的な動きを身に付けるようにすることが重要である。
- その際、回る、ぶら下がる、支える、走る、跳ぶ、はねるなどの多様な動きを経験し、様々な「できる」体験を積み重ねる活動を通して、児童一人一人の運動についての自信を膨らませるようにすることが大切である。
- 加えて、各種の運動に進んで取り組む態度を育成するために、児童一人一人の「またやりたい」、「もっとやりたい」という意欲を引き出すとともに、友達と一緒に楽しく運動する実感を味わえるような活動を保証することが大切である。
- 中学年においては、低学年で育んだ運動についての自信を維持できるよう留意しながら、児童一人一人が課題の解決に向けて、楽しく意欲的に運動に取り組むことが重要である。
- その際、誰もが安心して取り組めるやさしい活動の場やルール等を提示し、児童一人一人の活動を保証することが大切である。
- 加えて、仲間意識が豊かになる中学年期に、楽しく運動することを通して、友達と仲よく協力しながら学習に取り組むことの楽しさや魅力等に気付くことができるようにすることが大切である。
- 高学年においては、課題が徐々に難しくなり、学習内容を身に付けにくくなる児童が増えてくることに留意しつつ、活動の場や用具、ゲームにおけるルール等を工夫し、誰もが楽しめる活動を保証することが重要である。加えて、児童一人一人の運動能力や技能、運動についての関心・意欲等の個人差が拡大する時期でもあるため、個に応じた指導の一層の充実を図ることが必要である。
- その際、運動技能の習得だけでなく、運動に楽しく取り組みながら仲間と主体的・協働的に学習する態度の育成や、自分や仲間の課題の解決に向けて思考・判断する学習の充実に留意することが大切である。

## I-1. ペーパーテスト調査結果の概要(体育(保健領域))

### 1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 身近な健康課題等の解決に向けて、自分に合った方法を判断すること
- 周囲の状況を見極め、危険に気付いて的確に判断すること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 自分で手が届かない大きなけがへの対処方法を判断すること
- 健康情報を分析すること
- 健康に関する概念について具体例を当てはめたり、具体例を考えて表現したりすること

#### (2) 身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容の理解

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 日常生活で経験したことと関連させて健康・安全の内容を理解すること

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 日常生活で捉えにくい健康・安全の内容を理解すること

### 2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 「体の発育・発達の個人差」に関すること【新設】
- 「犯罪被害に関わるけがの防止」の一部(周囲の状況を見極め、犯罪にあいやすい点)に関すること【新設】

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 「地域の様々な保健活動の取組」に関すること【新設】

### 3. 従来より課題と指摘される事項等

相当数の児童ができている (おおむね80%以上)

- 「生活習慣の乱れや食生活についての理解」に関すること【従来より課題】
- 「自転車の交通安全についての理解」に関すること【従来より課題】

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- 「心の健康に関する内容の思考・判断」に関すること【従来より課題】
- 「性に関する内容の理解」の一部(思春期の体の発育)に関すること【従来より課題】
- 「感染症の予防に関する内容の理解」の一部(予防接種)に関すること【従来より課題】

## I-2. 指導上の改善点(体育(保健領域))

### 1. 健康課題を解決する能力の育成を目指した指導の充実

- 身近な健康課題を解決する能力の育成に向けて、健康・安全に関する身近な体験や事例を取り上げるとともに、保健の授業で新たに学んだことを比較したり、関連付けたりする指導が引き続き重要である。
- 健康の保持増進を図る能力を高めるために、病気やけがの発生要因を予想し、その起こり方を整理し、予防の方法を考える指導が引き続き重要である。
- 緊急性の高いけがの手当などの健康・安全の課題に対して、具体的な状況場面を設定し、児童が状況を把握し、対応を判断するような活動を取り入れた指導が必要である。
- 身近な生活における健康情報を比較したり、関連付けたりして分析し、その意味を考え、表現する指導が重要である。例えば、喫煙と健康の関係についての写真や図などから健康課題を読み取ったり、他の情報と関連付けてまとめ発表したりする学習などが必要である。
- 身近な生活における健康に関する概念について、具体的な事例を結び付けて考え、説明する指導が必要である。

### 2. 健康・安全に関する基礎的な内容の理解を促進する指導の充実

- 健康な生活と病気の予防、心の健康、安全、性など健康をめぐる現代的な課題に対応した指導が引き続き重要である。
- 生活習慣の乱れや食生活に関する内容については、健康な生活や発育・発達に関わる重要な内容であり、例えば、体の発育に関わる栄養素の摂取の重要性などの知識を着実に身に付けさせるような指導が必要である。
- 安全に関する内容のうち、自分では手当できない大きなけがの判断といった内容に課題が見られたことから、けがの種類や程度などの状況に応じて対処方法を予測する指導の充実が重要である。
- 心の健康については、生活経験やこれまでの知識と、保健の授業で新たに学んだことを比較したり、関連付けたりするような活動を取り入れた指導が必要である。
- 不安や悩みへの対処方法についての内容では、体ほぐしの運動を用いるなどして、保健領域と運動領域の相互の内容を関連付けた指導が必要である。
- 性に関する内容については、男女の特徴や初経・精通などの思春期の体の変化と異性への関心といった基礎的な知識を確実に身に付けさせるような指導が必要である。
- 感染症に関する内容については、病気の予防について病原体が体に入るのを防ぐことへの理解とともに、予防接種により体の抵抗力を高めることへの理解が深まる指導の充実が引き続き重要である。
- 生涯を通じた健康の保持増進のために、地域で行われている人々の健康を守るための活動については、これまでに見たり利用したりしたことのある施設を取り上げたり、保健所や保健センターで実際に行われている活動を示したりするといった具体的な指導の充実が必要である。

### 3. 健康の保持増進のための実践力を育てる指導の充実

- 児童が健康について関心を深めたり、児童の多様な考えを引きだしたりするように指導することが必要である。
- 健康・安全の課題の解決を目指して主体的に、また仲間の意見を聞きながら協働的に学び、生涯にわたって生活に役立てるための基礎を身に付ける指導が必要である。



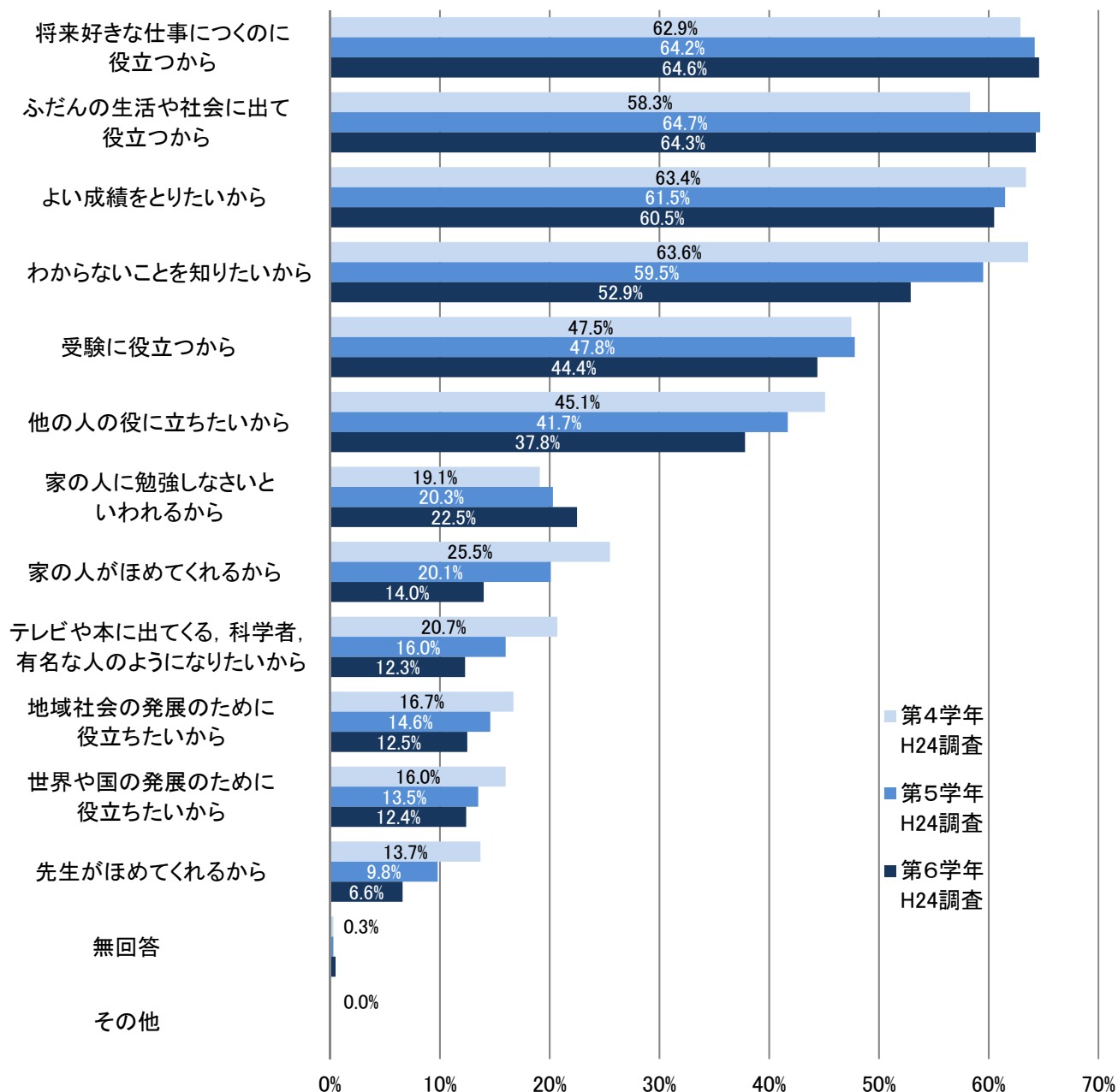
## IV. 質問紙調査結果のポイント

### 1. 児童質問紙調査のポイント

#### (1) 「ふだん何のために、学習しているか」についての調査結果

○ 学習する目的について、「将来好きな仕事につくのに役立つから」と回答をしている児童の割合は、どの学年においても60%以上

◇ ふだん何のために、勉強をしていますか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

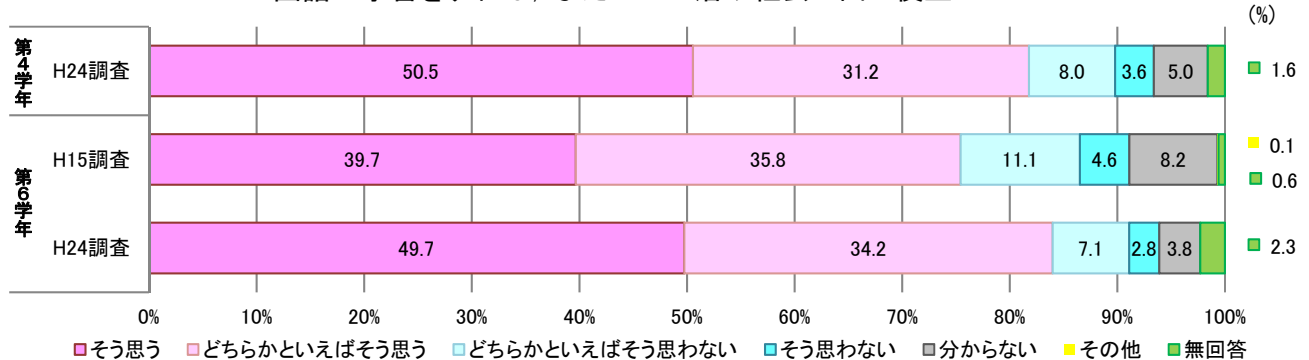


※「H24調査」は、平成25年2月18日から平成25年3月8日に実施した「小学校学習指導要領実施状況調査」を示している(以下、同様)。

## (2) 「学習すれば、ふだんの生活等に役立つ」についての調査結果

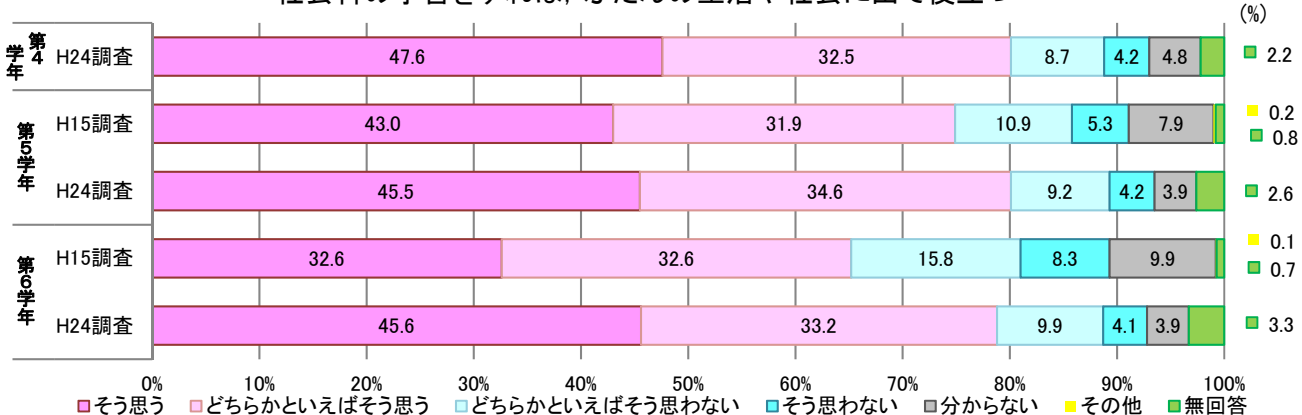
○ 各教科の「学習をすれば、ふだんの生活等に役立つ」という質問について、前回調査(平成15年度実施)、音楽等質問紙調査(平成16年度実施)と比べ、多くの教科・学年において、児童の肯定的な回答の割合が高くなっている。

国語の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ

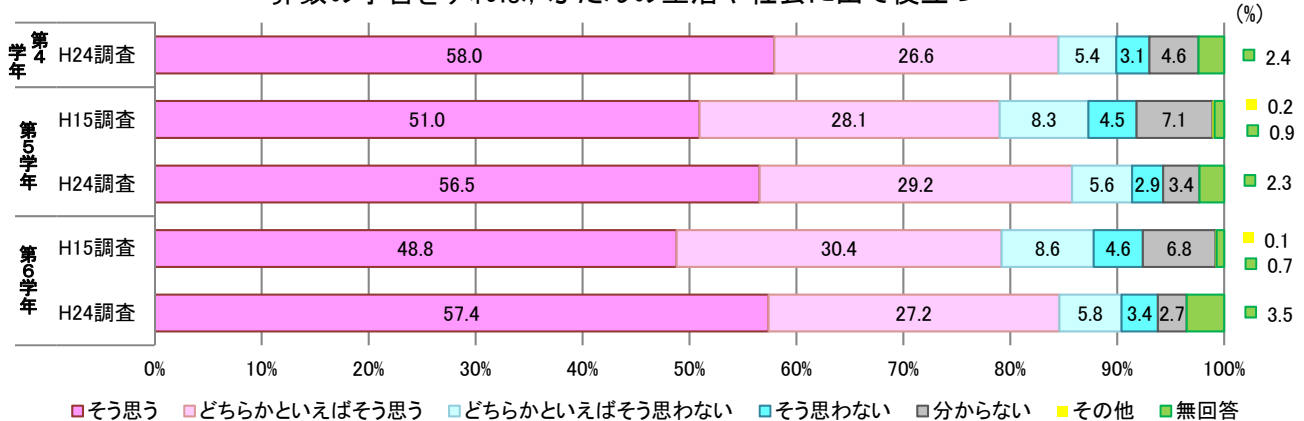


※ H15調査において、第4学年は未実施

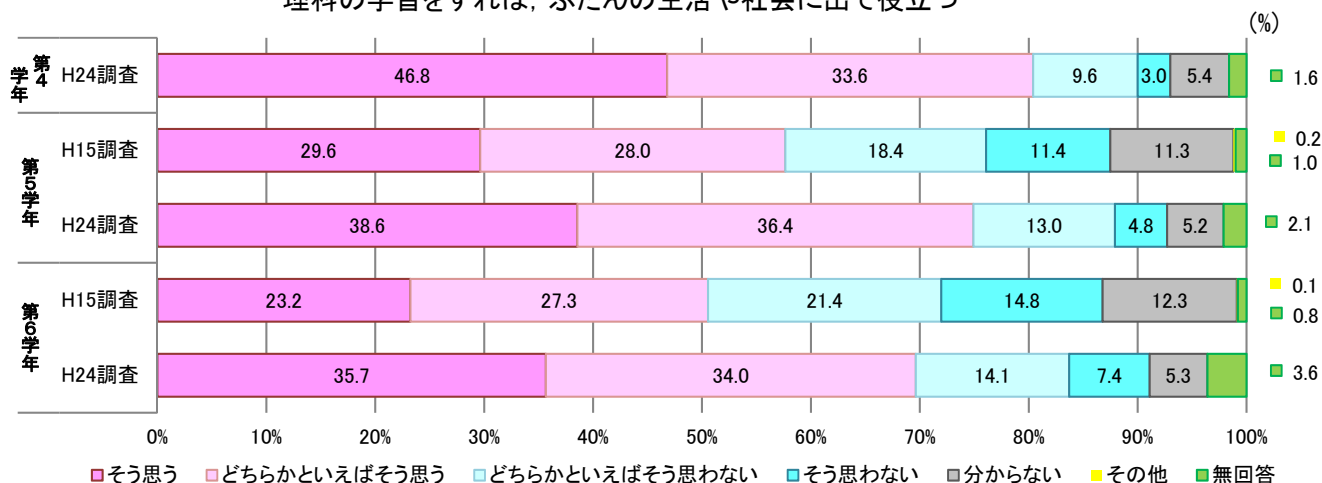
社会科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



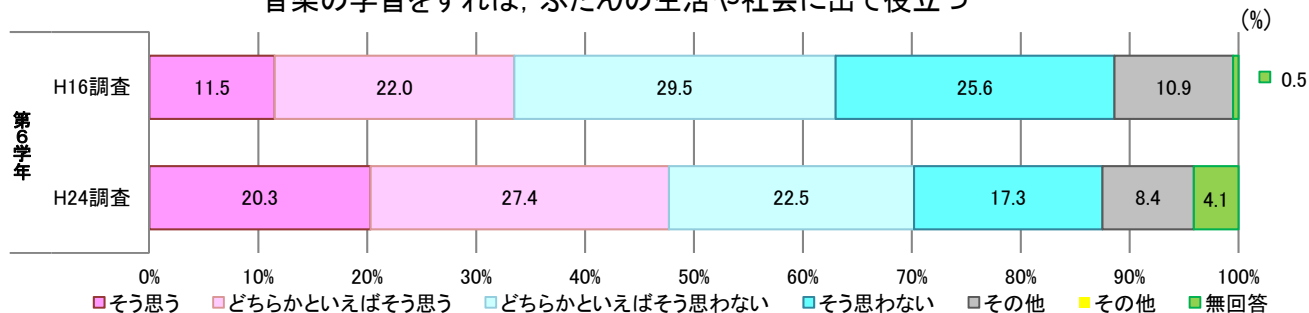
算数の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



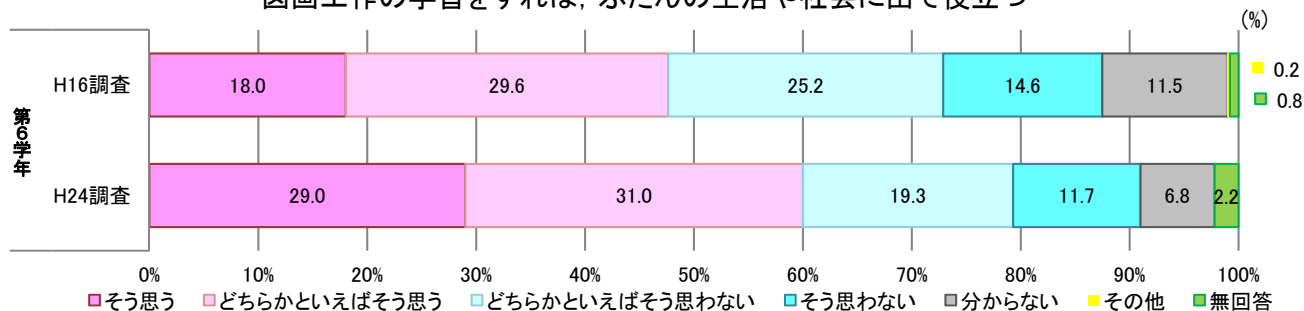
### 理科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



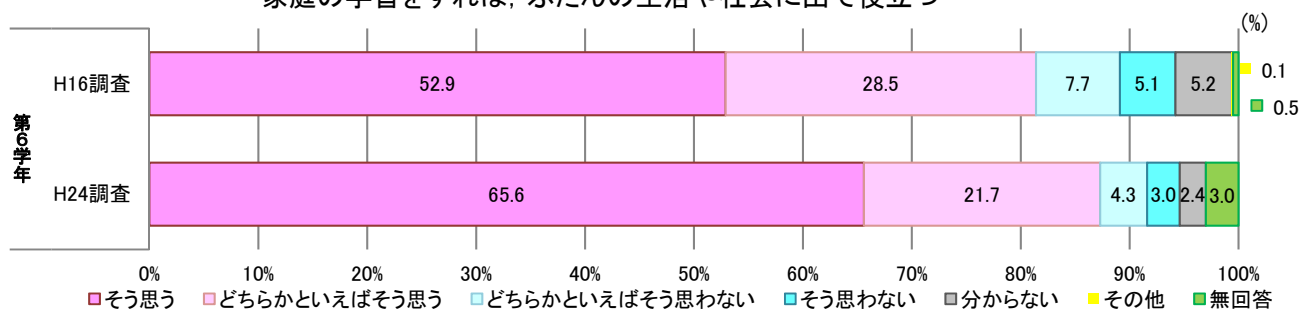
### 音楽の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



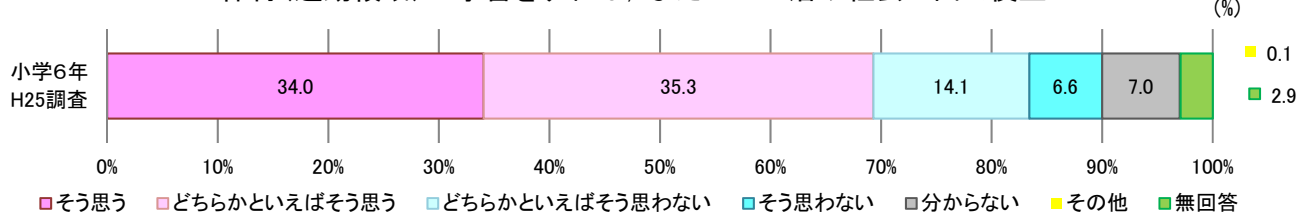
### 図画工作の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



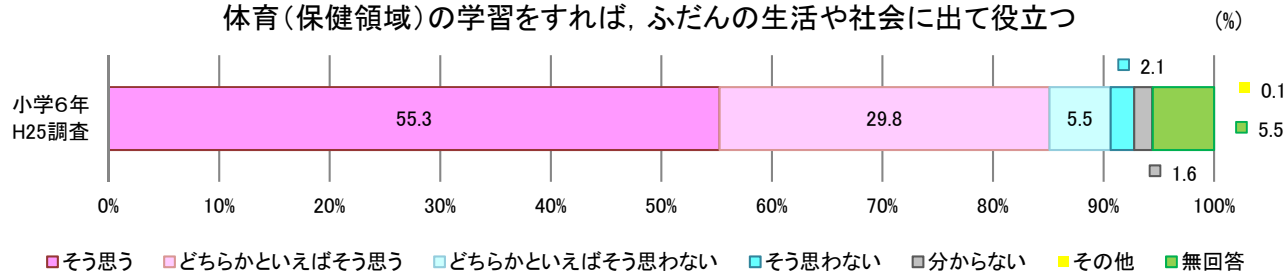
### 家庭の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



体育(運動領域)の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



体育(保健領域)の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



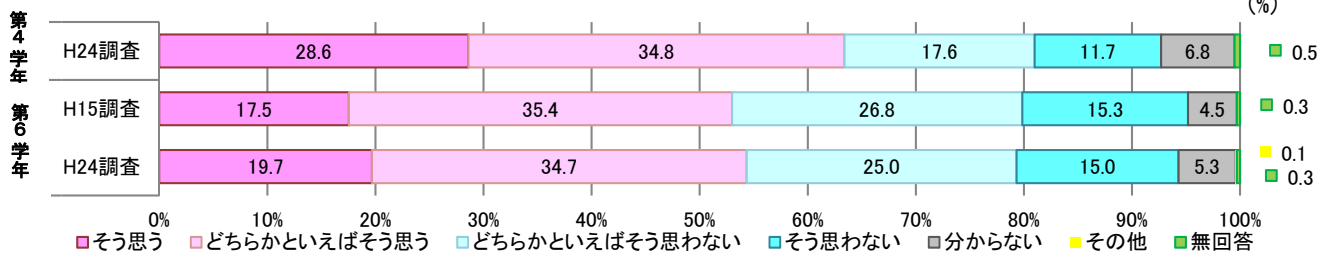
※「H15調査」(平成16年2月17日実施)は、「小・中学校教育課程実施状況調査」を示している(以下、同様)。

※「H16調査」(平成17年1月25日～平成17年2月17日実施)は、「音楽等質問紙調査」を示している(以下、同様)。

※体育(運動領域、保健領域)については、H16調査では、「私の普段の生活や社会に出て役立つ」と両領域を分けずに質問しているため、比較対象としていない(「体育、保健体育の学習が好きだ」についても同様)。

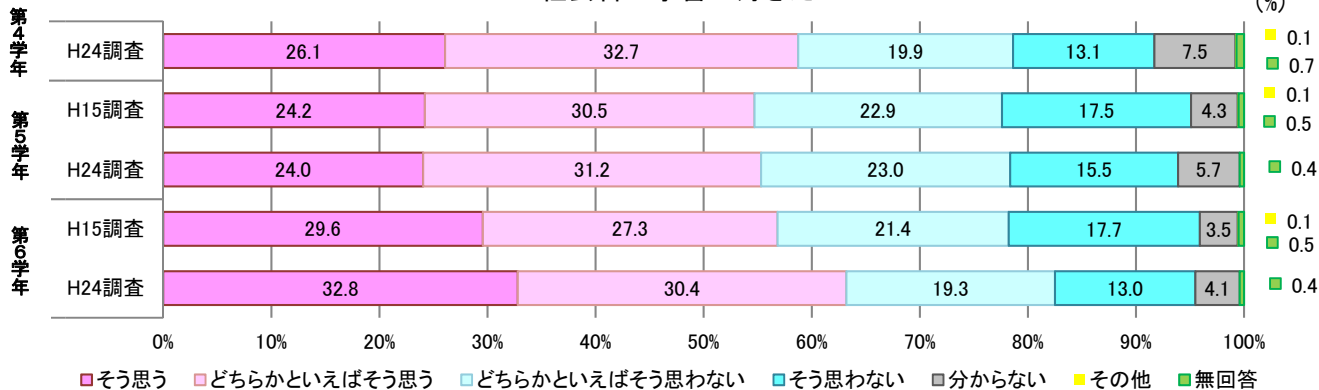
### (3) 「学習が好きだ」についての調査結果

国語の学習が好きだ

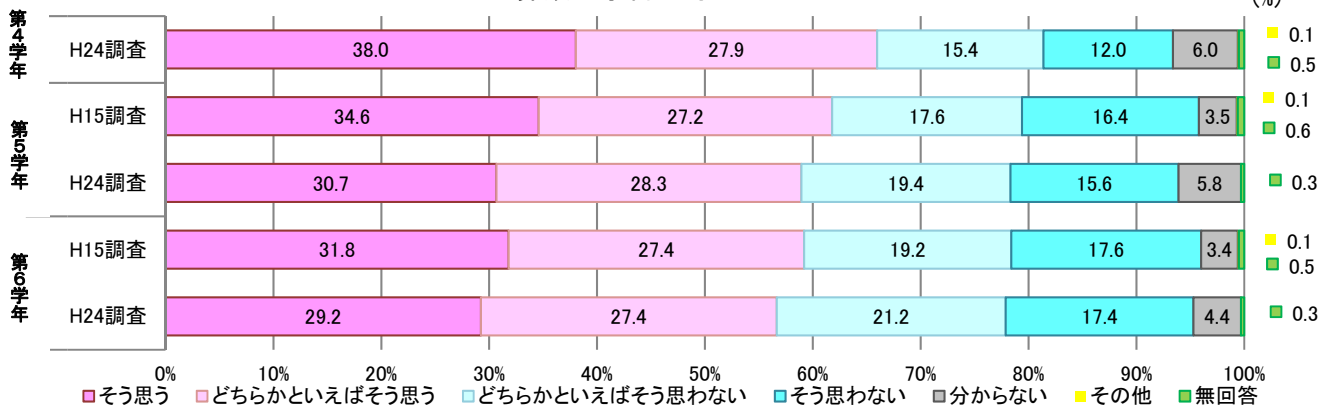


※ H15調査において、第4学年は未実施

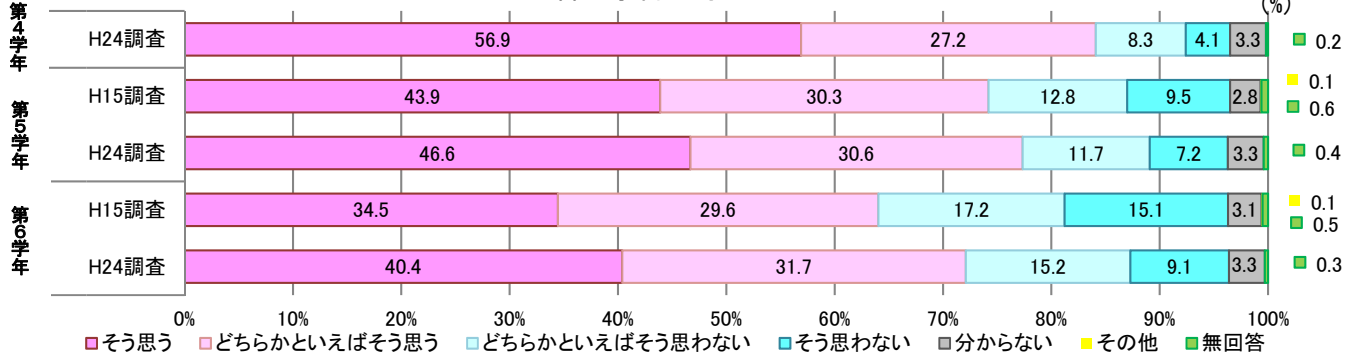
社会科の学習が好きだ



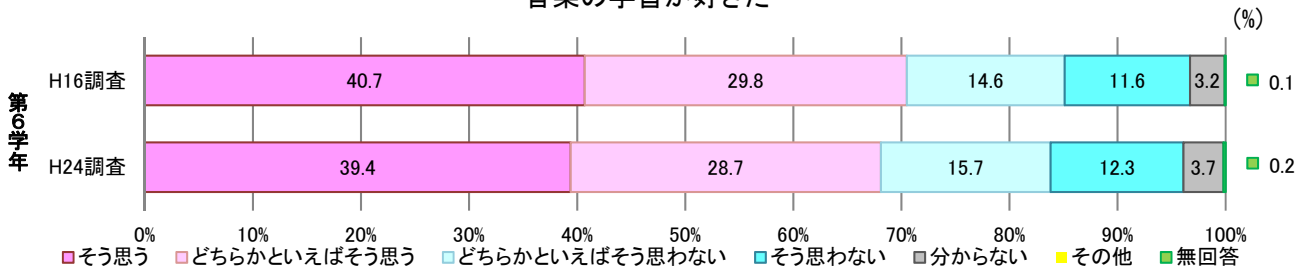
算数の学習が好きだ



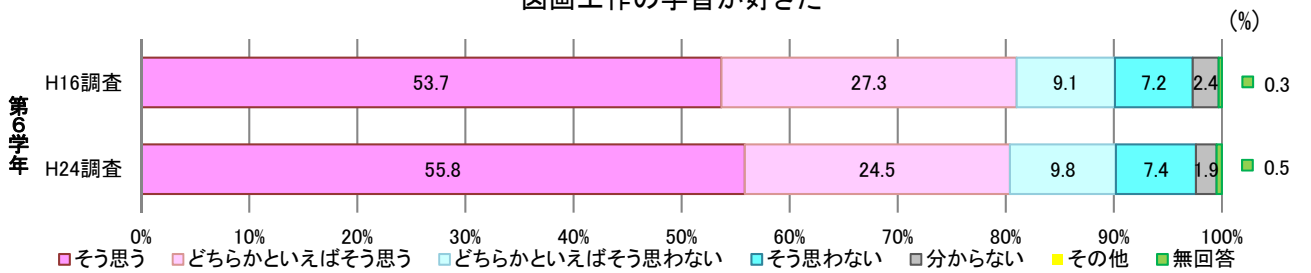
理科の学習が好きだ



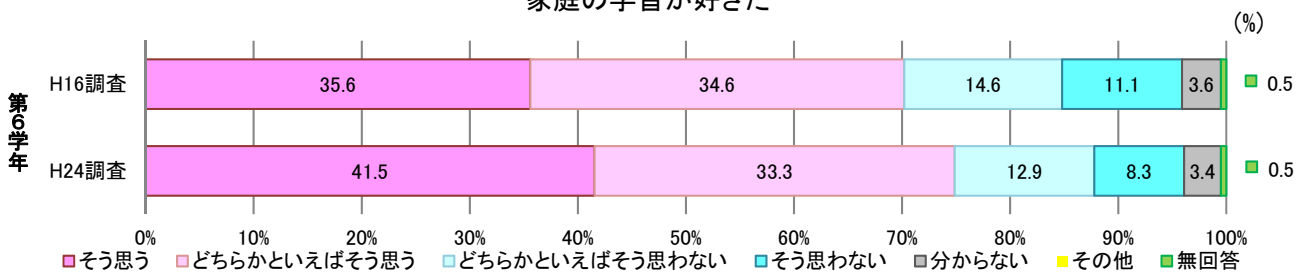
### 音楽の学習が好きだ



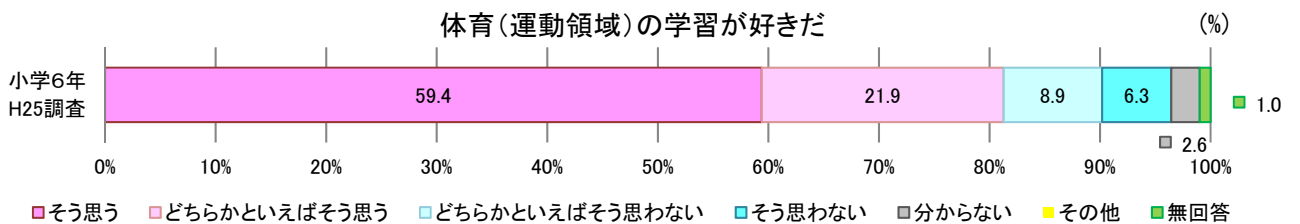
### 図画工作の学習が好きだ



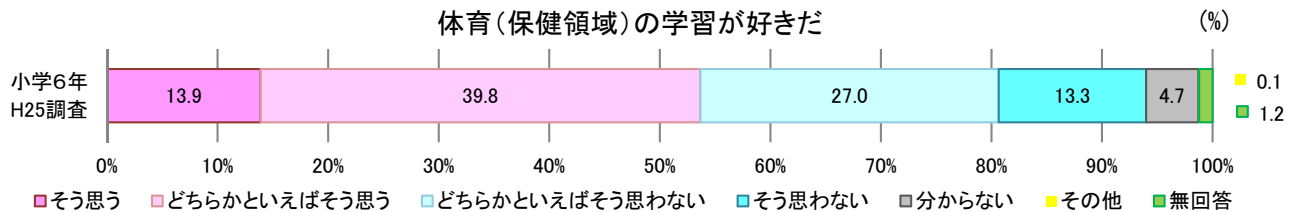
### 家庭の学習が好きだ



### 体育(運動領域)の学習が好きだ



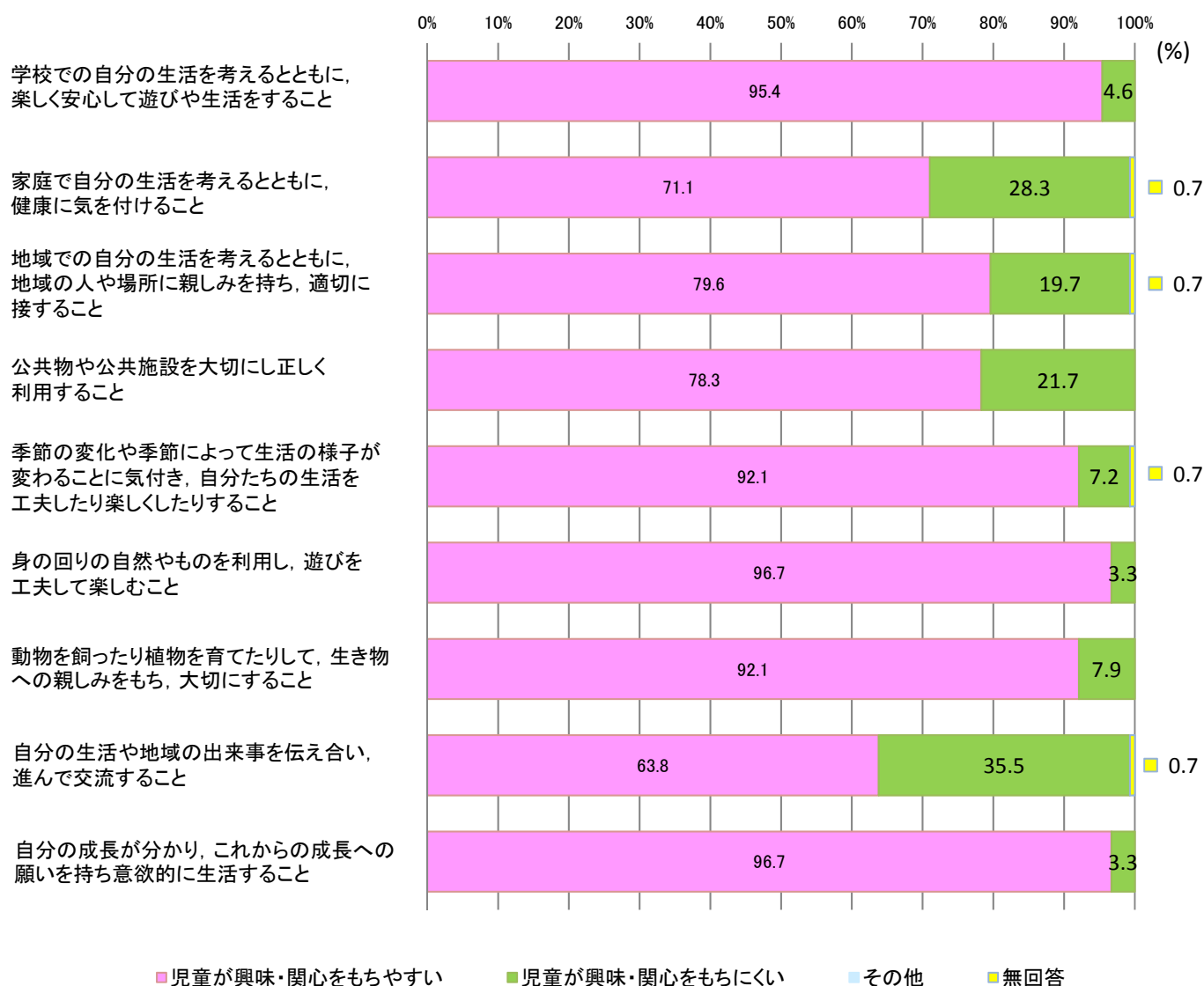
### 体育(保健領域)の学習が好きだ



#### (4)「生活科」についての調査結果

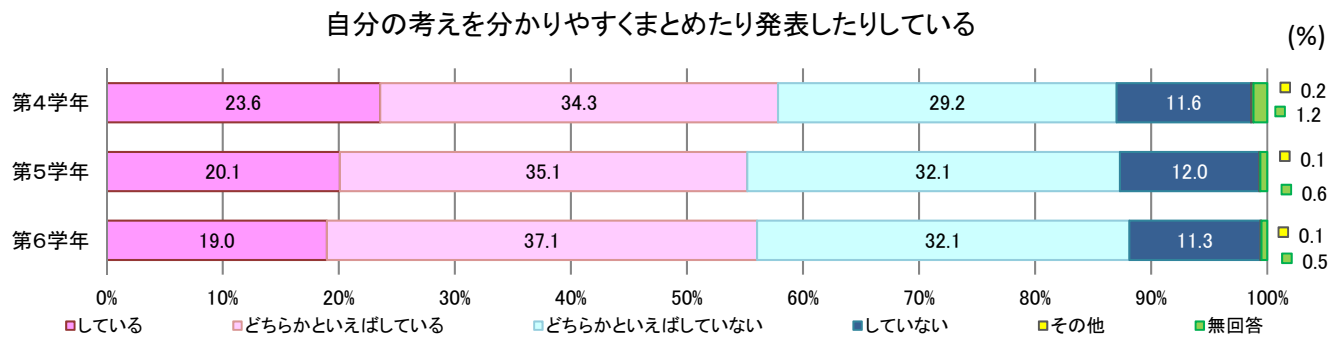
- 「児童が興味・関心をもちやすい」と回答している割合が90%以上の内容は、「学校と生活」、「季節の変化と生活」、「自然や物を使った遊び」、「動植物の飼育・栽培」、「自分の成長」である。
- 回答している割合が70%未満の内容は、「生活や出来事の交流」である。これは、今回の学習指導要領から新たに加えられた内容であり、他の内容と関連させて単元を構成するなど、今後一層の工夫が求められる。

小学校第1・2学年で指導する次の(1)から(9)の生活科の各内容ごとに、あなたの学級における児童の学習状況等について、ア、イそれぞれに該当するものを選び、その番号に○を付けてください。

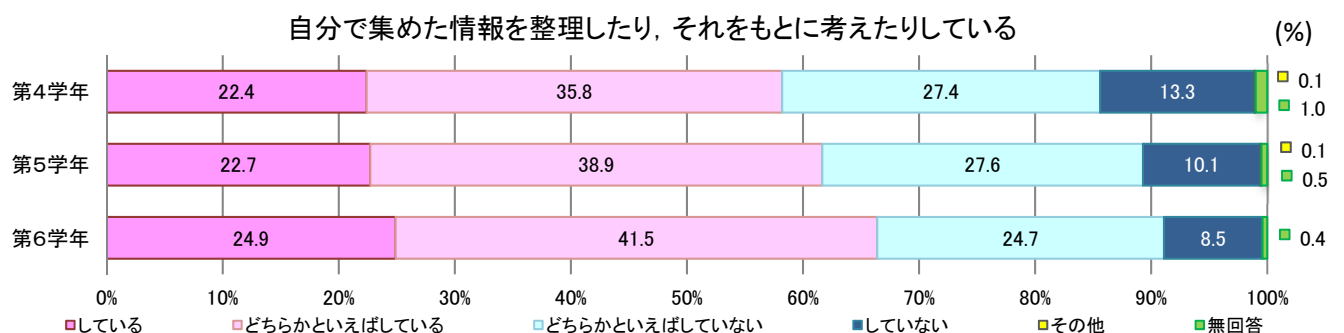
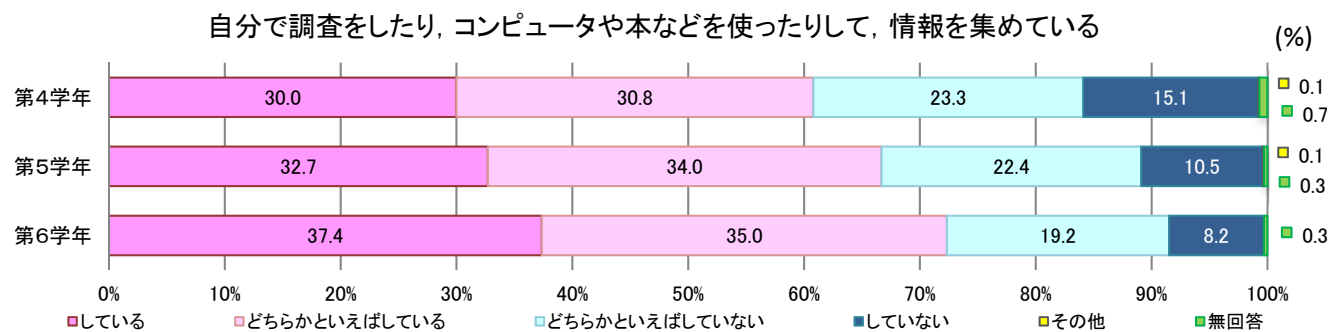
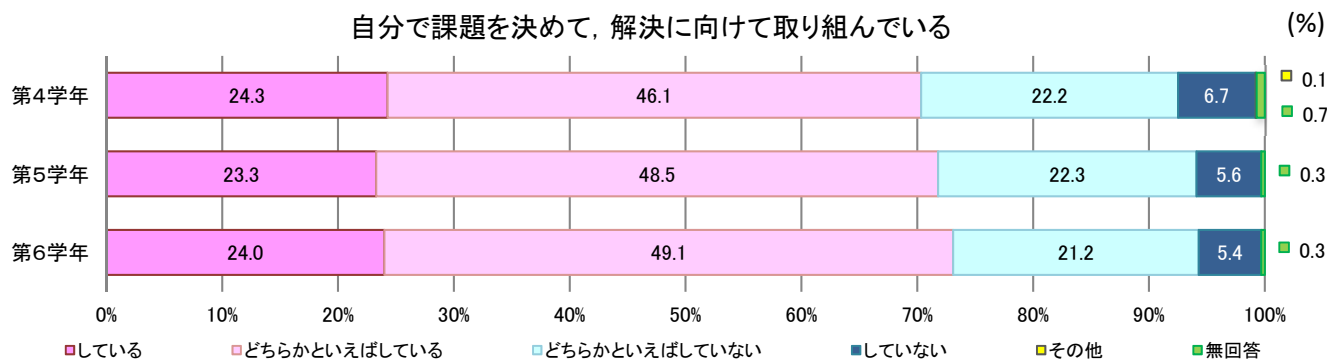


## (5) 「総合的な学習の時間」についての調査結果

○ 探究の過程における「まとめ・表現」に関する質問では、否定的な回答をしている児童の割合が全学年で40%を上回っている。



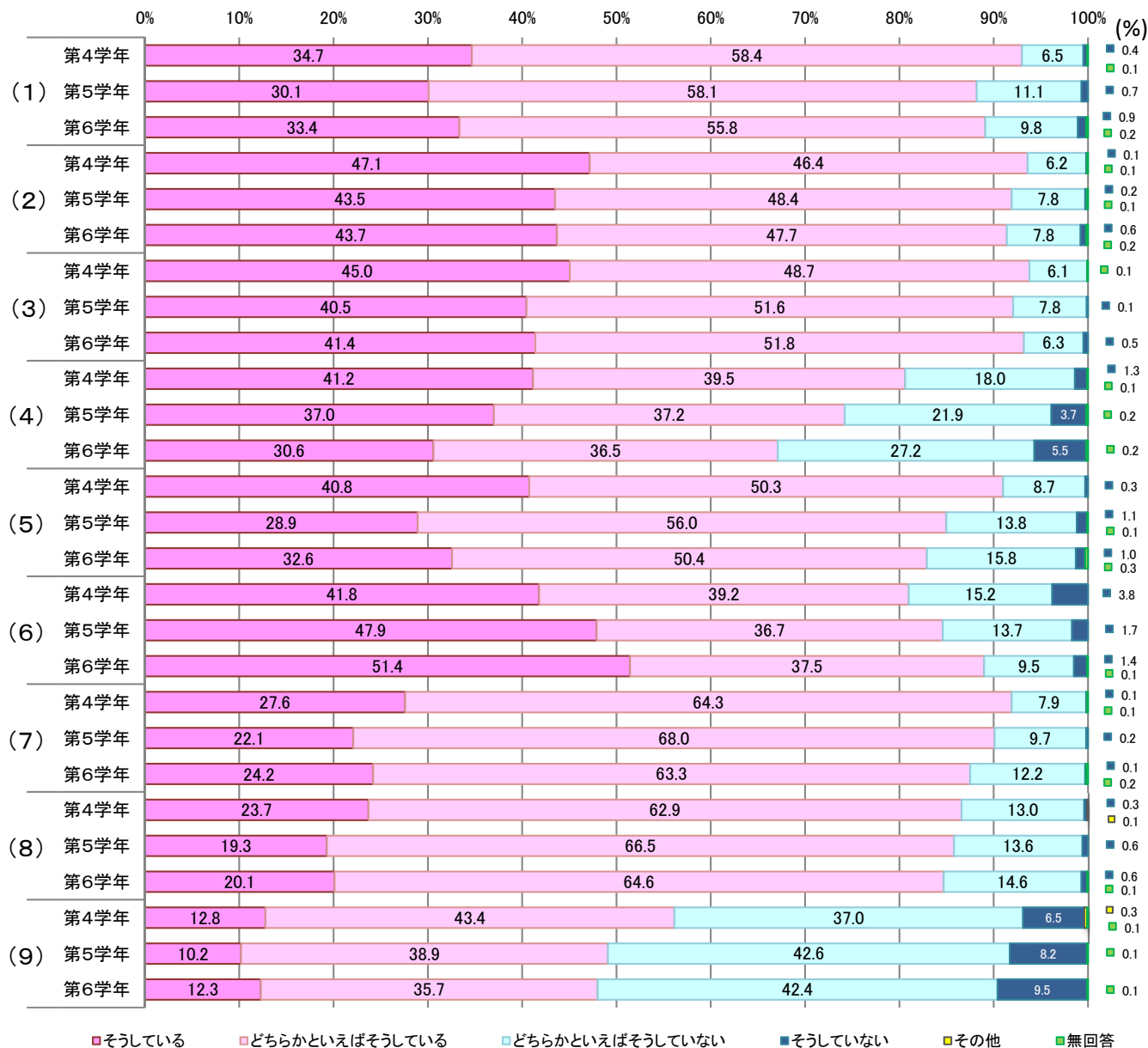
<参考>「まとめ・表現」以外の総合的な学習の時間における「探究の過程」に関する質問の回答状況





○ 教師質問紙調査の全9項目中8項目で肯定的な回答の割合が否定的な回答の割合よりも多く、そのうち7項目では、肯定的な回答の割合が80%を上回っている。

○総合的な学習の時間に関する全質問の回答状況

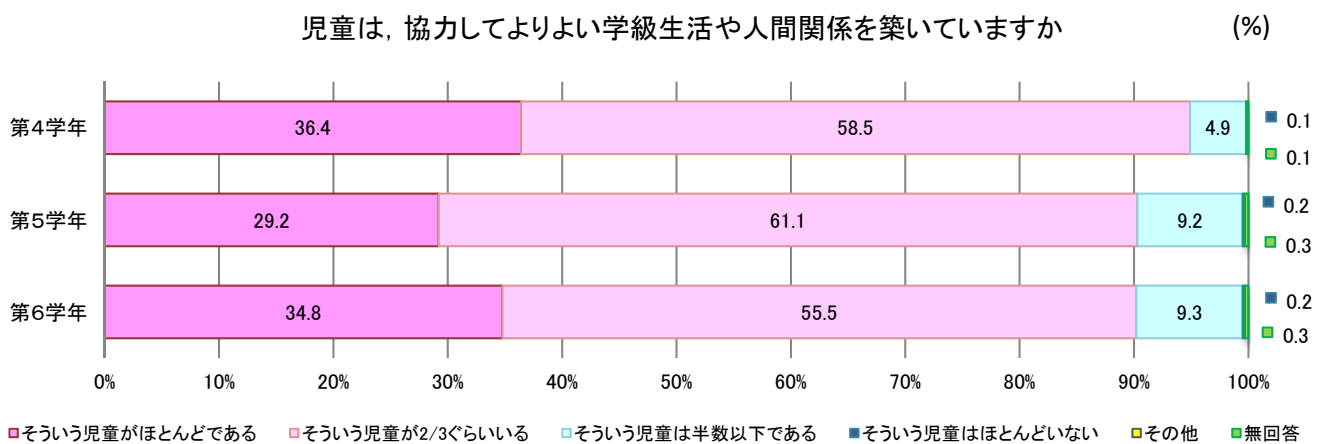
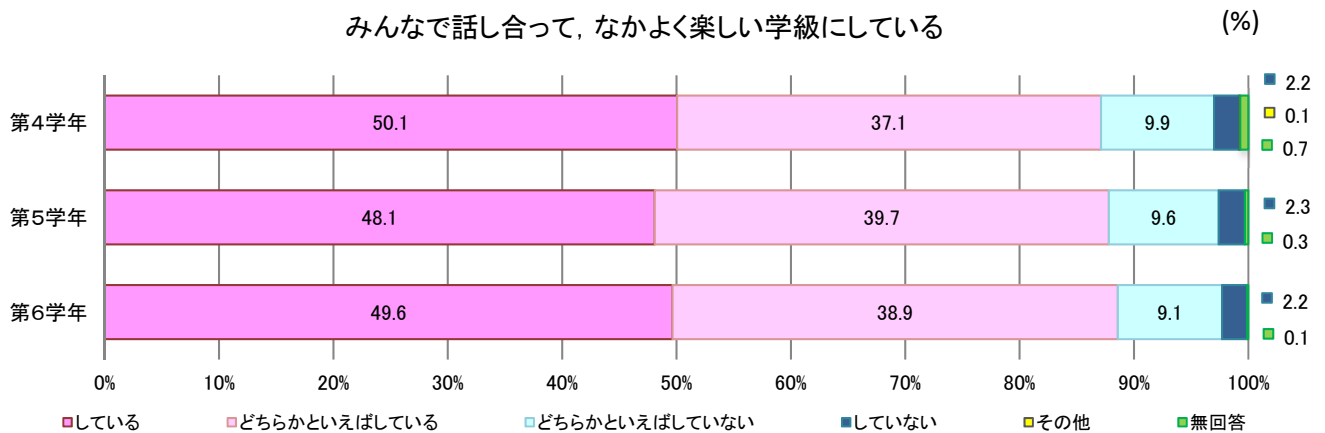


質問内容

- (1) 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現といった探究の過程を意識した学習活動を行っていますか
- (2) 他者と協同して問題を解決しようとする学習活動を行っていますか
- (3) 言語により、分析したり、まとめたり、表現したりする学習活動を行っていますか
- (4) 地域を生かした自然体験や社会体験など体験活動を行っていますか
- (5) 各教科等と総合的な学習の時間とを関連付けた学習活動を行っていますか
- (6) コンピュータや情報通信ネットワークを利用した学習活動を行っていますか
- (7) 児童の学習状況や成果、よい点や進歩の状況などを適切に評価していますか
- (8) 育てようとする資質や能力及び態度、学ぶべき内容を明らかにした学習活動を行っていますか
- (9) 総合的な学習の時間と道徳との関連を図った授業を行っていますか

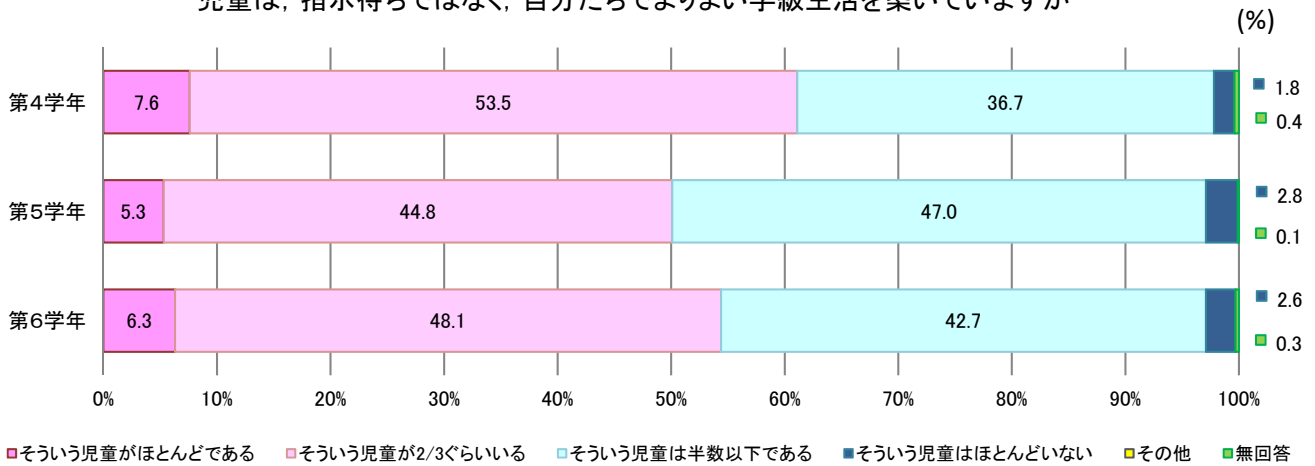
## (6) 「特別活動」についての調査結果

○ 特別活動の目標に関して、特に「よりよい人間関係を築く力の育成」に関連する質問については、肯定的な回答の割合が児童及び教師質問紙調査の両方とも約9割である。



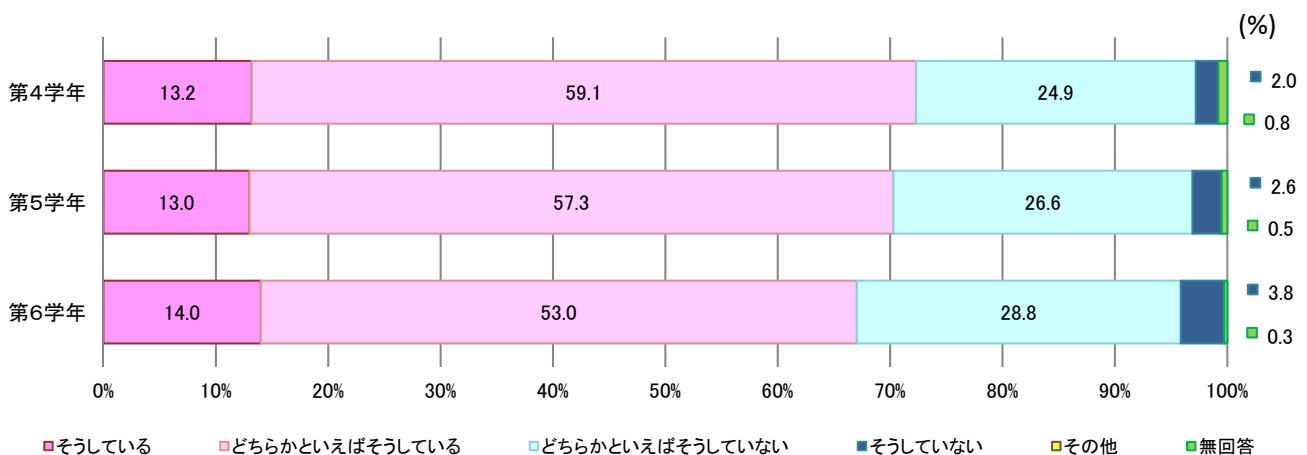
○ 「自治的能力の育成」の状況に関する質問については、否定的な回答をした教師の指導を受けている児童の割合が約4割から約5割である。

児童は、指示待ちではなく、自分たちでよりよい学級生活を築いていますか



○ 「道徳との関連を図った」指導に関する質問については、否定的な回答をした教師の指導を受けている児童の割合が約3割である。

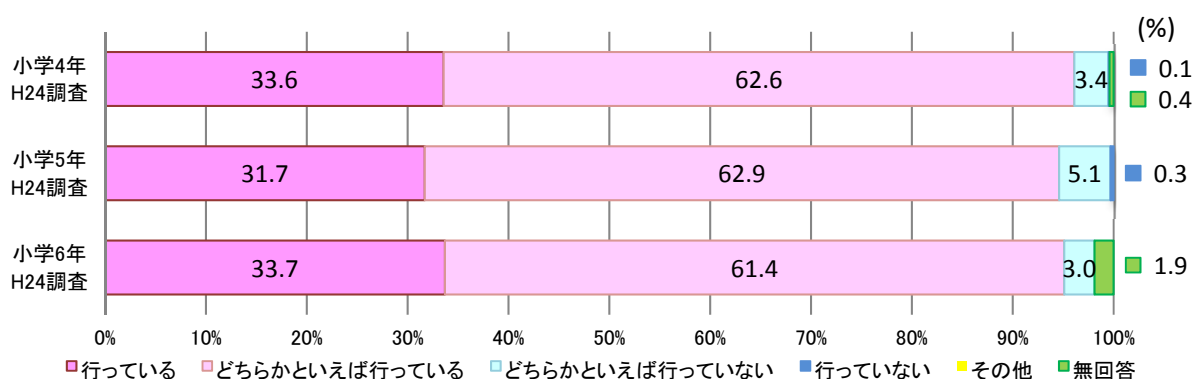
特別活動と道徳との関連を図った授業や活動を行っていますか



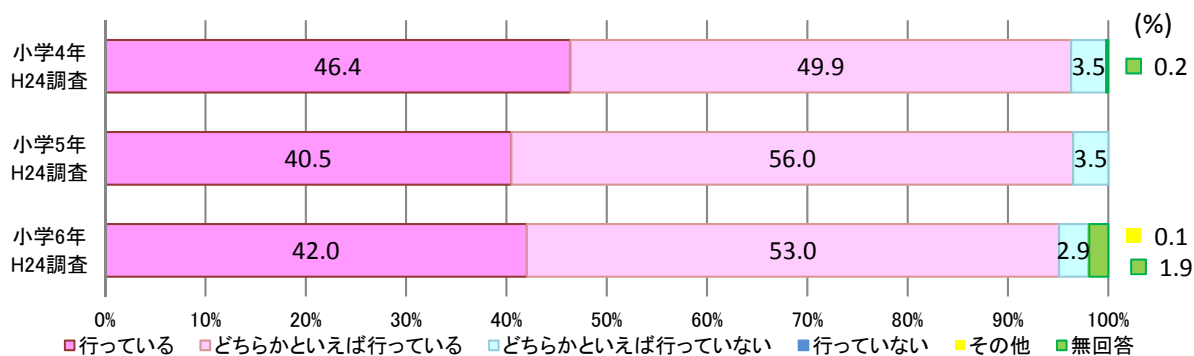
## 2. 教師質問紙調査のポイント

- 学習指導要領改訂の基本方針を意識して授業を「行っている」又は「どちらかといえば行っている」と回答した教師の指導を受けている児童の割合がどの学年においても90%以上

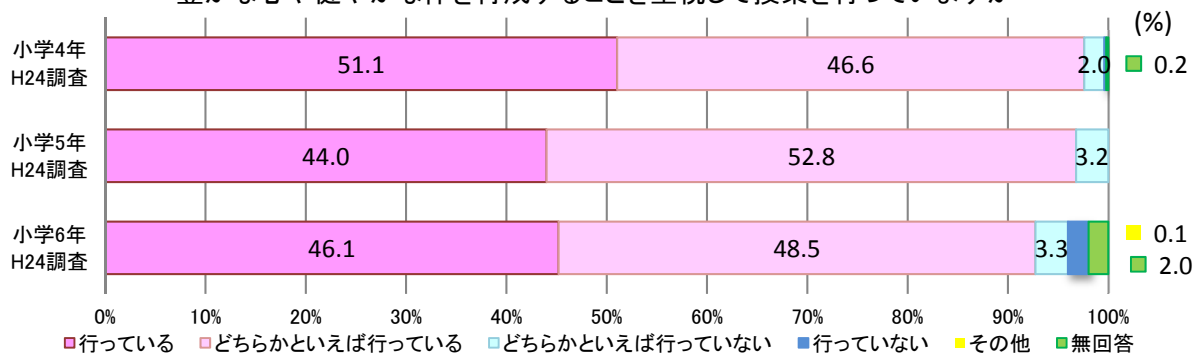
基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育成する観点からバランスを重視して授業を行っていますか



主体的に学習に取り組む態度を養うことを重視して授業を行っていますか

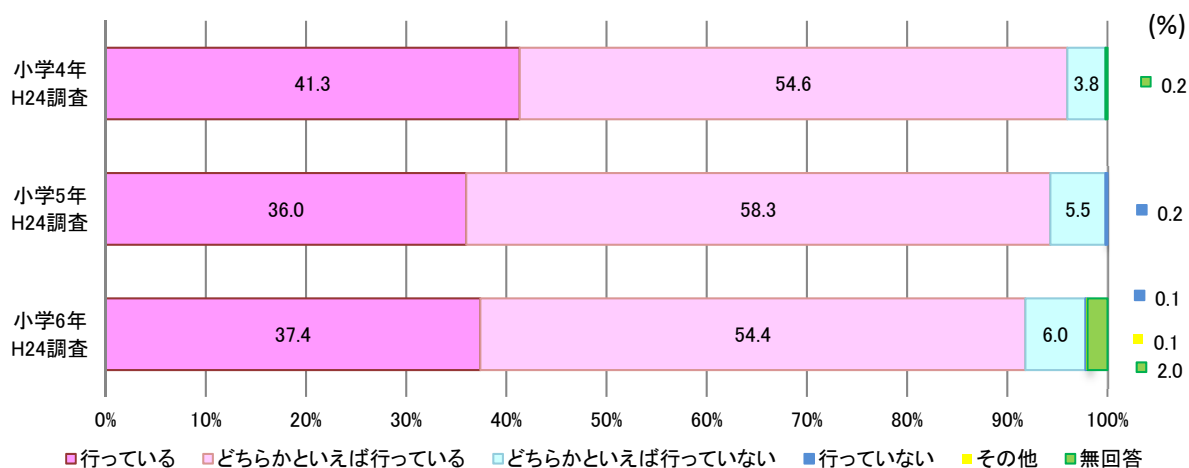


豊かな心や健やかな体を育成することを重視して授業を行っていますか



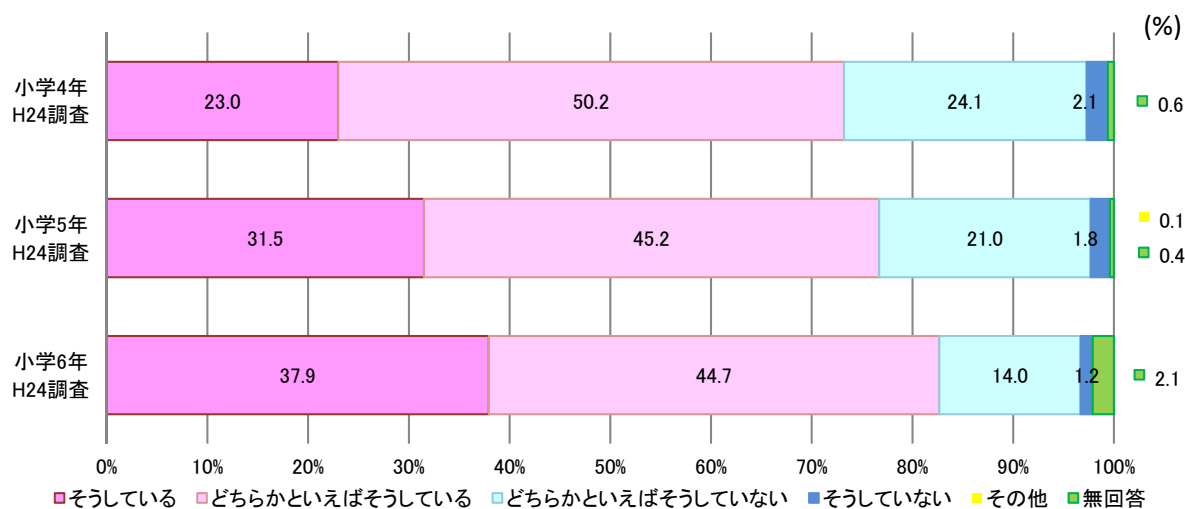
○ 言語活動を重視して授業を「行っている」又は「どちらかといえば行っている」と回答した教師の指導を受けている児童の割合がどの学年においても90%以上

思考力・判断力・表現力の育成を図る上で必要となる言語活動を重視して授業を行っていますか



○ 中学校における学習へのつながりを意識した指導をしている教師の指導を受けている児童の割合が、学年が上がるに連れて高くなる傾向

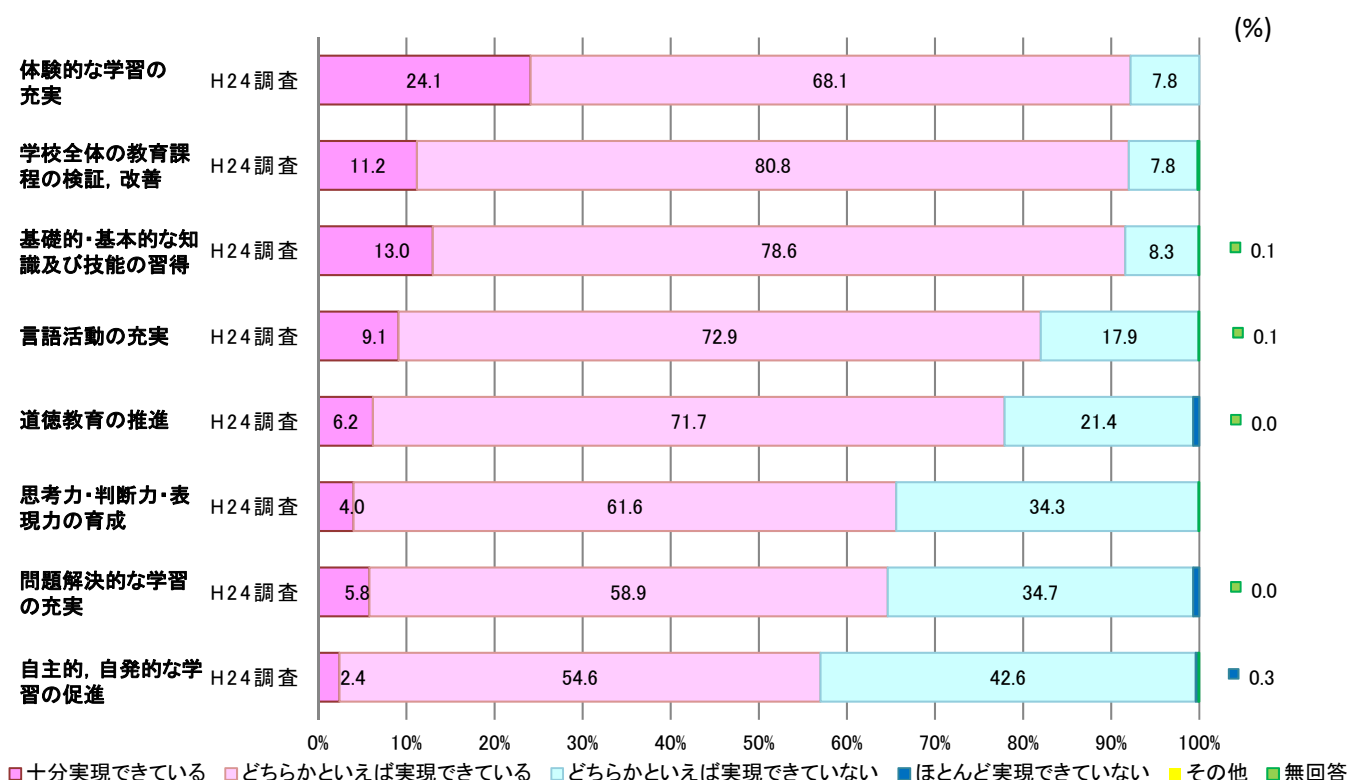
日々の学習における指導内容が、中学校における学習にどのようにつながっていくのかを意識しながら指導していますか



### 3. 学校質問紙調査のポイント

- 「体験的な学習の充実」、「学校全体の教育課程の検証, 改善」、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」の3項目については, 90%以上の学校が「十分実現できている」又は「どちらかといえば実現できている」と回答
- 「自主的, 自発的な学習の促進」については, 30%以上の学校が「ほとんど実現できていない」又は「どちらかといえば実現できていない」と回答

あなたの学校では, 次の8項目についてどの程度実現できていると思いますか



- 家庭や地域社会との連携については, 95%以上の学校が肯定的な回答

あなたの学校では, 家庭や地域社会と連携しながら, 地域人材を活用した授業を行ったり, 学校外の団体等と連携した授業を行ったりしていますか

